

機械・航空工学科

(1) 卒業要件

授業科目分類	機械システム工学コース			電子機械工学コース			航空宇宙工学コース					
	必修	選必	選択	合計	必修	選必	選択	合計	必修	選必	選択	合計
専門基礎科目 開講単位数 取得要求単位数	31	16	47	33	14	47	32.5	16.5	49	32.5	4.5	37
専門科目 開講単位数 卒業研究 取得要求単位数	7 5 12	54.5 5 23	61.5 5 35	8.5 5 13.5	45 5 23.5	53.5 5 37	13 5 18	45 5 20	58 5 38	13 5 18	45 5 20	58 5 38
関連専門科目 開講単位数 取得要求単位数			27.5 5	27.5 5		17.5 3	17.5 3		17.5 5	17.5 5		17.5 5
小計 開講単位数 卒業研究 取得要求単位数	38 5 43	98 5 37	136	41.5 5 46.5	76.5 5 33.5	118 5 80	45.5 5 50.5	79 5 80	124.5 5 80	45.5 5 50.5	79 5 29.5	124.5 5 80
履修方法	必修 卒業研究 選択	38単位 5単位 37単位以上		必修 卒業研究 選択	41.5単位 5単位 33.5単位以上		必修 卒業研究 選択	45.5単位 5単位 29.5単位以上		必修 卒業研究 選択	45.5単位 5単位 29.5単位以上	
合計		80単位以上		合計	80単位以上		合計	80単位以上		合計	80単位以上	
全學教科目	16単位以上 2単位以上 12単位以上 6単位以上 6単位以上 <u>注1</u> 2単位以上											
文系基礎科目 文系教養科目	4単位以上											
理系基礎科目 数学関係 物理学関係 化学関係	23.5単位以上 微分積分学Ⅰ,Ⅱ,線形代数学Ⅰ,Ⅱ,複素関数論の計10単位は必修 力学Ⅰ,Ⅱ,電磁気学Ⅰ,Ⅱ,物理学実験の計9.5単位は必修 化学基礎Ⅰ,Ⅱ,の計4単位は必修											
理系教養科目	4単位以上											
全學教養科目 開放科目	2単位以上											
履修方法	合計 53.5単位以上											
卒業必要単位数	133.5単位以上			133.5単位以上			133.5単位以上					

(2) 進級要件

判定年次	科目区分	最低必要科目数／単位数	条件等
1年終了時	理系基礎科目	5科目	理系基礎科目を5科目以上修得すること。
2年終了時	全學基礎科目 文系基礎科目 文系教養科目 理系基礎科目 理系教養科目 全學教養科目 開放科目	41単位	一 全學基礎科目 「言語文化」として英語6単位及び英語以外の外国語(ドイツ語,フランス語,ロシア語,中国語,スペイン語,朝鮮・韓国語及び日本語(外国人留学生対象))のうちから1外国語4.5単位を含む10.5単位以上,又は,英語5単位及び英語以外の1外国語6単位を含む11単位以上を修得すること。 二 理系基礎科目は,物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上修得すること。

注1:ドイツ語,フランス語,ロシア語,中国語,スペイン語,朝鮮・韓国語のうち1外国語6単位。
ただし,外国人留学生は日本語でもよい。

※ 関連専門科目欄において所属履修コースが明示した科目に加え,機械・航空工学科の他履修コースの「専門科目」(所属する履修コースの専門科目と重なるものは除く)を,関連専門科目とする。

(2) 授業科目一覧

本一覧は変更となることもあるので、履修登録の際には注意すること。

専門基礎科目

授業科目名	担当教員			単位数	開講時期及び必修・選択の別			
					履修コース			
					機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	
図学	各教員			2	1前	必修	1前	必修
数学1及び演習	伊藤 伸太郎 講師	酒井 武治 准教授	軸屋 一郎 助教	3	1後	必修	1後	必修
	飯盛 浩司 助教							
数学2及び演習	新美 智秀 教授	田地 宏一 准教授	松田 佑 助教	3	2前	必修	2前	必修
	香川 高弘 助教							
解析力学及び演習	長谷川 達也 教授	山下 博史 教授	林 直樹 助教	2.5	2前	必修	2前	必修
	松岡 健 助教							
統計物理学	吉川 典彦 教授			2	4後	選択	4後	選択
材料力学及び演習	荒井 政大 教授	大野 信忠 教授	木下 佑介 助教	2.5	2前	必修	2前	必修
	仙場 淳彦 助教							
固体力学	田中 英一 教授	池田 忠繁 准教授	平林 智子 助教	2	2後	選択	2後	選択
材料科学第1	奥村 大 准教授	森田 康之 准教授		2	2後	必修	2後	必修
流体力学基礎第1及び演習	酒井 康彦 教授	山口 浩樹 准教授		2.5	1後	必修	1後	必修
粘性流体力学	中村 佳朗 教授			2			2後	必修
熱力学及び演習	山下 博史 教授	吉川 典彦 教授	菅野 望 助教	2.5	2前	必修	2前	必修
伝熱工学	成瀬 一郎 教授	笠原 次郎 教授		2	3前	選択	3後	選択
設計基礎論	森田 康之 准教授			2	3前	選択	3前	選択
機構学	山田 陽滋 教授	大日方 五郎 非常勤講師		2	2前	選択	2前	選択
振動学及び演習	井上 剛志 教授	原 進 准教授	安芸 雅彦 助教	2.5	2後	必修	2後	必修
制御工学第1及び演習	早川 義一 教授	閑山 浩介 准教授	中島 明 助教	2.5	2後	必修	2後	必修
	中島 正博 助教							
制御工学第2	早川 義一 教授	坂本 登 准教授		2	3前	選択	3前	必修
計算機ソフトウェア第1	松本 敏郎 教授	奥村 大 准教授		2	1前	必修	1前	必修
情報基礎論	福澤 健二 教授	伊藤 伸太郎 講師		2	2後	選択	2後	選択
電気回路工学	式田 光宏 准教授	鈴木 達也 教授		2	2後	必修	2後	必修
精密加工学	社本 英二 教授	梅原 徳次 教授		2	3前	必修	3前	必修
計測基礎論	秦 誠一 教授			2	3前	選択	3前	選択

専門科目

授業科目名	担当教員	単位数	開講時期及び必修・選択の別				
			履修コード	一 ス	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
機械・航空工学科概論	各教員	2	1前 選択	1前 選択	1前 選択		
連続体力学	田中 英一 教授	2	3前 選択				
動的システム論	宇野 洋二 教授	新井 史人 教授	2	3後 選択	3後 選択	3後 選択	
量子力学基礎	森 敏彦 非常勤講師	2	3後 選択	3後 選択	3後 選択		
固体力学演習	田中 英一 教授	平林 智子 助教	0.5	2後 選択			
材料強度学	巨 陽 教授	2	3後 選択				
材料科学第2	大野 信忠 教授	2	3前 選択	3前 選択	3前 選択		
材料科学第3	巨 陽 教授	2	3後 選択	3後 選択			
流体力学基礎第2	長田 孝二 准教授	山口 浩樹 准教授	2	2前 選択	2前 選択		
流体力学基礎第2演習	長田 孝二 准教授		0.5	2前 選択			
粘性流体工学	酒井 康彦 教授		2	3前 選択			
非粘性流体力学	長田 孝二 准教授		2	2後 選択			
エネルギー変換工学	成瀬 一郎 教授	義家 亮 准教授	2	3後 選択	3後 選択		
伝熱工学演習	成瀬 一郎 教授	植木 保昭 助教	0.5	3前 選択			
熱環境システム	山本 和弘 准教授		2	4前 選択			
機械システム設計	松本 敏郎 教授		2	3後 選択	3後 選択		
振動波動工学	井上 剛志 教授		2	3前 選択	3前 選択		
メカトロニクス工学	長谷川 泰久 教授	福垣 伸吉 講師	2	3後 選択	3後 必修		
ロボット工学	関山 浩介 准教授		2	4前 選択	4前 選択		
計算機ソフトウェア第2	武市 昇 准教授	森田 康之 准教授	2	1後 選択	1後 選択	1後 選択	
数値解析法	村瀬 晃平 准教授		2	3前 選択			
数理計画法	田地 宏一 准教授		2	4前 選択	4前 選択	4前 選択	
材料加工学	秦 誠一 教授		2	2後 選択			
超精密工学	秦 誠一 教授		2	3後 選択	3後 選択		
生産システム	樋野 励 准教授		2	3後 選択	3後 選択		
センシング工学	新美 智秀 教授		2	3後 選択	3後 選択		
電気回路工学演習	鈴木 達也 教授	田崎 勇一 助教	0.5		2後 必修		
電磁力学	酒井 武治 准教授		2		2後 選択	2後 選択	
電子回路工学	高木 賢太郎 講師	長野 方星 准教授	2	3前 選択	3前 必修	3前 選択	
デジタル回路	高木 賢太郎 講師		2		3後 選択		
アクチュエータ工学	大岡 昌博 教授		2		4前 選択		
信号処理	大岡 昌博 教授		2		3後 選択	3後 選択	
飛行力学	佐宗 章弘 教授	坂本 昇 准教授	2			3前 必修	
	小林 実 特任教授						
非圧縮性流体力学	中村 佳朗 教授		2			2前 必修	
圧縮性流体力学	佐宗 章弘 教授		2			3前 必修	
気体燃焼論	吉川 典彦 教授		2			3後 必修	
原動機要素論	笠原 次郎 教授		2			4前 選択	
宇宙航行力学	山田 克彦 教授		2			3後 選択	
応用構造理論	池田 忠繁 准教授		2			3前 選択	
飛行安定操縦性論	武市 昇 准教授		2			3後 選択	
計算流体力学	森 浩一 准教授	北村 圭一 助教	2			3後 選択	
	橋本 敦 非常勤講師						
最適制御理論	坂本 登 准教授		2			4後 選択	4後 選択
宇宙機概論	長野 方星 准教授	山中 浩二 非常勤講師	1			3後 選択	
航空原動機設計法	松本 祐太 非常勤講師		1			3後 選択	
航空機基礎設計法	田中 博幸 非常勤講師		1			3後 選択	
ロケット工学第1	佐宗 章弘 教授	小林 実 特任教授	1			3後 選択	
ロケット工学第2	駒井 巍 非常勤講師	岩崎 文哉 非常勤講師	1			3後 選択	
ヘリコプター工学	牛丸 義晶 非常勤講師		1			3前 選択	
ライトコントロールシステム	佐藤 昌之 客員准教授		1			3後 選択	
航空宇宙機工作法	山田 伸人 非常勤講師		1			3前 選択	
航空宇宙材料	都築 圭紀 非常勤講師	阿部 俊夫 非常勤講師	1			3前 選択	
	本田 史郎 非常勤講師	中村 武志 非常勤講師					
航空装備システム	米原 健一郎 非常勤講師	古屋 徹 非常勤講師	1			3前 選択	
	山本 剛志 非常勤講師						
航空機構造設計法	濱本 健司 非常勤講師		1			3後 選択	

専門科目

授業科目名	担当教員	単位数	開講時期及び必修・選択の別		
			履修コース		
			機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
空力弹性論	中道 二郎 非常勤講師	長畠 正史 非常勤講師		1	4前 選択
安全・信頼性工学	松田 義行 非常勤講師	伴野 道彦 非常勤講師		1	4前 選択
機械システム研修Ⅰ	各教員			1	3前 必修
機械システム研修Ⅱ	各教員			1	3後 必修
機械・航空工学科設計製図第1	上坂 裕之 准教授	鈴木 敦和 准教授		1	3前 必修 3前 必修 3前 必修
機械・航空工学科設計製図第2	閔山 浩介 准教授	高橋 徹 講師		1	3後 必修 3後 必修 3後 必修
機械システム工学設計製図	梅原 徳次 教授			1	4前 必修
機械創造設計製作	新井 史人 教授	未定		2	2後 選択 2後 選択
航空宇宙創造設計	笠原 次郎 教授	池田 忠繁 准教授	武市 昇 准教授	1	4前 必修
	長野 方星 准教授	森 浩一 准教授	山田 克彦 客員教授		
	松岡 健 助教	横田 茂 助教	菅野 望 助教		
	長嶋 哲矢 非常勤講師	松田 実 非常勤講師			
機械・航空工学科実験第1	井上 剛志 教授	岡本 正吾 助教	中島 正博 助教	1	3前 必修 3前 必修 3前 必修
	松田 佑 助教	中村 慎一郎 助教	中島 明 助教		
	香川 高弘 助教	林 直樹 助教	田崎 勇一 助教		
	平林 智子 助教	仙場 淳彦 助教	軸屋 一郎 助教		
	北村 圭一 助教	丸山 央峰 准教授	飯盛 浩司 助教		
	野老山 貴行 助教	安藝 雅彦 助教			
機械・航空工学科実験第2	井上 剛志 教授	長野 方星 准教授	武市 昇 准教授	1	3後 必修 3後 必修 3後 必修
	丸山 央峰 准教授	田崎 勇一 助教	中島 明 助教		
	香川 高弘 助教	飯盛 浩司 助教	植木 保昭 助教		
	林 直樹 助教	平林 智子 助教	寺島 修 助教		
	木下 佑介 助教	野老山 貴行 助教	岡本 正吾 助教		
	中村 慎一郎 助教	菅野 望 助教	松田 佑 助教		
工場実習	各教員			1	3前 選択 3前 選択 3前 選択
工場見学	各教員			1	3年 選択 3年 選択 3年 選択
機械・航空工学科特別講義	非常勤講師			1	4前 選択 4前 選択
卒業研究A	各教員			2.5	4前 必修 4前 必修 4前 必修
卒業研究B	各教員			2.5	4後 必修 4後 必修 4後 必修

関連専門科目

授業科目名	担当教員	単位数	開講時期及び必修・選択の別					
			履修コース			一覧		
			機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学			
工学概論第1	非常勤講師	0.5	1前 選択	1前 選択	1前 選択			
工学概論第2	非常勤講師	1	4前 選択	4前 選択	4前 選択			
#工学概論第3	レバト エマニュエル 講師	曾 剛 講師	西山 聖久 講師	2	4後 選択	4後 選択	4後 選択	
#工学概論第4	非常勤講師			3	1前 選択	1前 選択	1前 選択	
工学倫理	非常勤講師			2	1前 選択	1前 選択	1前 選択	
経営工学	非常勤講師			2	4後 選択	4後 選択	4後 選択	
産業と経済	非常勤講師			2	4後 選択	4後 選択	4後 選択	
特許及び知的財産	後藤 吉正 教授			1	4後 選択	4後 選択	4後 選択	
自動車工学	水野 幸治 教授			2	4前 選択			
移動体システム創造設計製作第1	水野 幸治 教授			2	3前 選択			
移動体システム創造設計製作第2	水野 幸治 教授			2	3後 選択			
生体工学	丸山 央峰 准教授			2	4前 選択			
#生産工学概論	宇野 洋二 教授			2	4前 選択	4前 選択	4前 選択	
工業化学通論	菊田 浩一 准教授	高野 淳志 准教授		2	4前 選択			
職業指導	非常勤講師			2	4後 選択	4後 選択	4後 選択	

注1：関連専門科目欄において所属履修コースが明示した科目に加え、機械・航空工学科の他履修コースの「専門科目」

(所属する履修コースの専門科目と重なるものは除く)を、関連専門科目とする。

注2：#印の科目は、原則として短期留学生を対象とした科目である。

回学（2.0単位）				
科目区分	専門基礎科目			
授業形態	講義及び演習			
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	
開講時期1	1年前期	1年前期	1年前期	
選択／必修	必修	必修	必修	
教員	各教員（教務）			
●本講座の目的およびねらい				
3次元空間にある图形（点、線、面および立体）を2次元の平面上に表現（作図）すること、また表現された図から3次元图形を計算的・幾何学的に解析する種々の問題を扱うことにより、空間的图形情報の把握・表現能力を養う。達成目標 1. 投影の概念の習得 2. 投影法の基礎と応用・実際の習得 3. 点、線、平面相互関係の表現法の習得 4. 立体の展開、切断面、相貫線の基本の習得				
●バックグラウンドとなる科目 特になし。				
●授業内容 1. 図学の基本事項 2. 投影法の基礎 3. 正投影法（点の投影、直線の投影、平面の投影） 4. 副投影法（点の投影、直線と直線・平面と直線・平面と平面の相互関係） 5. 切断法 6. 多面体と断面 7. 曲線と曲面 8. 立体の相互関係 9. 輪廓投影 10. 期末試験				
●教科書 「可視化の図学」（図学教育ワークショップ 2014編著、三恵社） 必要に応じて演習課題のプリントを配付。				
●参考書 特になし。				
●評価方法と基準 講義内容の理解度を確認する演習課題での得点を30%、期末試験での得点を70%で評価し、合計点が100点満点で60点以上を合格とする。（村上） 講義内容の理解度を確認する期末試験のみで評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（長坂）				
●履修条件・注意事項 作図用器具（最初の講義で説明）を持参。				
●質問への対応 担当教員連絡先： 村上好生052-638-2338（直通） murakami@meijo-u.ac.jp 長坂今夫0568-51-9416（直通） nagasaka@isc.chubu.ac.jp 質問は講義終了後教室で受ける。それ以外は、事前に担当教員に電話かメールで時間を打ち合わせること。				

数学1及び演習（3.0単位）				
科目区分	専門基礎科目			
授業形態	講義及び演習			
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	
開講時期1	2年前期	2年前期	2年前期	
選択／必修	必修	必修	必修	
教員	新美 智秀 教授	田地 宏一 准教授	松田 佑 助教	
●本講座の目的およびねらい				
数学1及び演習に引き続き、専門科目を学ぶ基礎力を身につけるため、工学上重要な方法であるフーリエ解析、ラプラス変換、および工学よく現れる偏微分方程式について講義する。それとともに、数学的考え方及び具体的な問題に現れる理論と応用との結び付きを身につける。				
●成績目標				
1. フーリエ級数展開及びフーリエ変換、逆変換の基礎を理解し計算ができる。 2. ラプラス変換の基礎を理解し、常微分方程式の解法に応用できる。 3. 簡単な偏微分方程式の導出でき、その解を求めることができる。				
●バックグラウンドとなる科目 数学基礎I, II, III, IV, V, 数学1及び演習				
●授業内容 1. フーリエ級数とその応用 2. フーリエ積分：3. ラプラス変換：4. 常微分方程式の解法 5. 偏微分方程式（情円型・双曲型・放物型）の導出：6. 偏微分方程式の解法				
●教科書 工業数学（上）：C.R.ワイヤー著、富久泰明訳（ブレイン図書出版）				
●参考書 ●評価方法と基準 期末試験100%、ただし、演習課題の提出率が90%未満のものは受験資格無し。				
○平成23年度以降入学者○ 100~90点：S, 89~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：F ○平成22年度以前入学者○ 100~80点：優, 79~70点：良, 69~60点：可, 59点以下：不可				
●履修条件・注意事項				
●質問への対応 講義全般については田地、新美、演習問題については演習担当教員、およびTAへ、時間外の質問は事前に担当教員にメールで打ち合わせておくこと。				

数学2及び演習（3.0単位）				
科目区分	専門基礎科目			
授業形態	講義及び演習			
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	
開講時期1	2年前期	2年前期	2年前期	
選択／必修	必修	必修	必修	
教員	新美 智秀 教授	田地 宏一 准教授	松田 佑 助教	
●本講座の目的およびねらい				
数学1及び演習に引き続き、専門科目を学ぶ基礎力を身につけるため、工学上重要な方法であるフーリエ解析、ラプラス変換、および工学よく現れる偏微分方程式について講義する。それとともに、数学的考え方及び具体的な問題に現れる理論と応用との結び付きを身につける。				
●成績目標				
1. 仮想仕事の原理とハミルトンの原理を理解し、説明できる。 2. ラグランジュの運動方程式を理解し、具体的な問題を解析できる。 3. 正準方程式と正準変換を理解し、説明できる。 4. 振動の一一般論を理解し、説明できる。				
●バックグラウンドとなる科目 (全授業科目) 数学、力学1、力学2 (工学部専門系科目) 数学1及び演習				
●授業内容 1. 仮想仕事の原理(仮想変位、安定・不安定) 2. 变分法(オイラー微分方程式、未定乗数法) 3. ダラシペールの原理(慣性抵抗) 4. ハミルトンの原理(ラグランジアン、測地線) 5. ラグランジュの運動方程式(一般化座標・力、質点系の運動) 6. 正準方程式(一般化運動量・ハミルトン関数、ルジャンドル変換) 7. 正準変換(Hamilton-Jacobiの偏微分方程式、ポアソン括弧式) 8. 振動の一一般論(平衡条件、直交関係、規準振動)				
●教科書 力学II：原島鮮（笠原書房）、必要な場合にはプリントで補充する。				
●参考書 初等物理学ノート(I)：柏村昌平編（学術図書出版社）、 力学I：原島鮮（笠原書房）				
●評価方法と基準 期末試験(80%)、提出課題(20%)で評価する。				
総合点100~90点：S, 89~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：Fとする。 但し、平成22年度以前の入学者については、100~80点：優, 79~70点：良, 69~60点：可, 59点以下：不可とする。				
●履修条件・注意事項				
●質問への対応 質問への対応：講義中、講義終了時、又はメールで連絡。 担当教員連絡先：山下（内4470、yamashita@mech）、 長谷川（内4506、t-hasegawa@esi）				

<p align="center">統計物理学 (2.0単位)</p> <p>科目区分 専門基礎科目 授業形態 講義 対象履修コース 機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学 開講時期 1 4年後期 4年後期 4年後期 選択／必修 選択 選択 選択 教員 吉川 典彦 教授</p> <p>●本講座の目的およびねらい 量子統計熱力学の基礎原理と計算方法の修得を目指す。 達成目標（ウエイトを [%] で示す。） 1. ボルツマン分布、分配関数等の基礎を理解し、分配関数の簡単な計算が出来る。 [50%] 2. 分配関数とエントロピー等のマクロな熱力学量との関係を理解し、簡単な計算 が出来る。 [50%]</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 熱力学及び演習、量子力学基礎</p> <p>●授業内容 1. 区別できる粒子の量子統計熱力学 2. エントロピーの統計熱力学の解釈 3. 理想結晶の統計熱力学 4. 理想気体の統計熱力学</p> <p>●教科書 統計力学入門－演習によるアプローチ, N. O. Smith著, 小林宏・岩橋慎夫訳, 東京化学同人. 印刷した講義ノートを配布する。</p> <p>●参考書 統計力学 (改訂版), 市村浩, 萩原房</p> <p>●評価方法と基準 レポート30%, 期末試験70%で評価して、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 連絡先：工学研究科2号館477号室, 内線4411, yoshi1467@live.jp</p>	<p align="center">材料力学及び演習 (2.5単位)</p> <p>科目区分 専門基礎科目 授業形態 講義及び演習 対象履修コース 機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学 開講時期 1 2年前期 2年前期 2年前期 選択／必修 必修 必修 必修 教員 荒井 政大 教授 大野 信忠 教授 木下 佑介 助教 仙場 淳彦 助教</p> <p>●本講座の目的およびねらい 応力とひずみを理解する。 達成目標： 1. 応力とひずみを理解する。 2. 棒の引張・圧縮、梁の曲げ、棒の振りの応力と変形を解析できる。 3. 組合せ応力解析およびひずみエネルギーを理解できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学、微分積分学</p> <p>●授業内容 1. 応力とひずみ 2. 引張と圧縮 3. はりの曲げ 4. 丸棒のねじり 5. 組合せ応力 6. ひずみエネルギー 7. 長柱の座屈</p> <p>●教科書 図解はじめての材料力学：荒井政大著（講談社）　　材料力学：村上敬宜著（森北出版） (担当教員の指示を受けること)</p> <p>●参考書 講義の進行に合わせて適宜紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 試験及び演習レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上100点までをSとする。但し、平成22年度以前の入学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 授業時に対応する。</p> <p>担当教員連絡先： 荒井教授 (内線4408, arai@nuae.nagoya-u.ac.jp), 大野教授 (内線4475, ohno@mech.nagoya-u.ac.jp), 木下助教 (内線4477, kinoshita@mech.nagoya-u.ac.jp), 仙場助教 (内線4410, senba@nuae.nagoya-u.ac.jp).</p>
--	---

<p align="center">固体力学 (2.0単位)</p> <p>科目区分 専門基礎科目 授業形態 講義 対象履修コース 機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学 開講時期 1 2年後期 2年後期 2年後期 選択／必修 選択 選択 必修 教員 田中 英一 教授 池田 忠繁 准教授 平林 智子 助教</p> <p>●本講座の目的およびねらい クラス A (機械システム工学コース, 田中教授担当) この講義と連携して行う固体力学演習のシラバスを参照のこと。</p> <p>クラス B (電子機械、航空宇宙工学コース, 池田准教授担当) 弾性力学の基礎理論について学ぶ。</p> <p>達成目標 1. 三次元弾性体に対し、平衡方程式、歪と変位の関係、適合条件式、応力と歪の関係、境界条件を理解し、説明できる。 2. エネルギーに関する定理を理解し、それを利用し問題を解くことができる。 3. 平面問題に対し、エアリの応力関数を用いて問題を解く方法を理解し、それを利用し問題を解くことができる。 4. 板の曲げの微分方程式、境界条件の導出過程を理解し、説明できる。また、長方形板の曲げ問題を解くことができる。 5. 大たわみ理論および座屈理論を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料力学及び演習 力学1 および演習</p> <p>●授業内容 クラス A 1. 運続体力学におけるテンソル 2. 物体の運動と変形の記述 3. 応力の概念</p> <p>クラス B 1. 応力とひずみ (3次元的一般論)、応力とひずみの関係 (弹性方程式) : 2. 弹性力学の諸定理: 3. 二次元弹性問題: 4. 平板の曲げ: 5. 大たわみ理論と座屈理論</p> <p>●教科書 クラス A よくわかる連続体力学ノート、京谷孝史著、森北出版 非線形有限要素法のためのテンソル解析の基礎、久田俊明著、丸善 Nonlinear Solid Mechanics, A Continuum Approach for Engineering, By Gerhard A.</p>	<p align="center">固体力学 (2.0単位)</p> <p>Holzapfel, Wiley Tensor Algebra and Tensor Analysis for Engineers With Application to Continuum Mechanics, By M. Itskov Continuum Mechanics, By G. Mase, McGraw-Hill</p> <p>●評価方法と基準 クラス A 期末試験により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、平成22年度以前入学者は60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上100点までをSとする。 クラス B 試験により目標達成度を評価する。中間試験 (50%) および期末試験 (50%) を基に、総合点60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 クラス A 随時受け付ける。講義時間以外の時間帯は、事前に担当教員にメールか電話で問い合わせること 担当教員連絡先：内線 2721, e_tanaka@nagoya-u.jp</p> <p>クラス B 随時受け付ける。講義中に知らせるweb上の掲示板を利用してもよい。 連絡先:E-mail: ikeda@nuae.nagoya-u.ac.jp</p>
---	---

材料科学第1 (2.0単位)					
科目区分	専門基礎科目	流体力学基礎第1及び演習 (2.5単位)			
授業形態	講義				
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学		
開講時期1	2年後期	2年後期	2年後期		
選択／必修	必修	必修	選択		
教員	奥村 大 准教授	森田 康之 准教授	酒井 康彦 教授	山口 浩樹 准教授	
●本講座の目的およびねらい	材料の微視的構造を原子レベルから学ぶとともに、平衡や反応に関する熱力学を学習する。これによって、微視構造から材料の性質を理解する考え方を習得する。達成目標 1. 結晶構造や微視組織等の材料の内部構造を理解し、説明できる。2. 格子欠陥、転位、粒界などの内部欠陥について理解し、説明できる。3. 平衡状態および反応に関する熱力学を理解し、説明できる。				
●バックグラウンドとなる科目					
●授業内容	1. 「材料科学」の概要 2. 原子中の電子構造と原子間力 3. 原子配列と結晶構造 4. 結晶構造中の点欠陥、線欠陥および面欠陥 5. 热力学と相平衡 6. 2成分系の平衡状態図 7. 反応速度論、拡散および相変態				
●教科書	材料科学1：パレット他（培風館）				
●参考書					
●評価方法と基準	達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験80%、レポート課題提出物および受講態度20%で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。 連絡先： okumura@mech.nagoya-u.ac.jp, ext. 2671, morita@mech.nagoya-u.ac.jp, ext. 4673				
●履修条件・注意事項					
●質問への対応	適宜受け付ける。				

粘性流体力学 (2.0単位)					
科目区分	専門基礎科目	熱力学及び演習 (2.5単位)			
授業形態	講義				
対象履修コース	航空宇宙工学	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	
開講時期1	2年前期	2年前期	2年前期		
選択／必修	必修	必修	必修	必修	
教員	中村 佳朗 教授	山下 博史 教授	吉川 典彦 教授	菅野 望 助教	
●本講座の目的およびねらい	粘性流に対する基礎方程式（ナビエ・ストークス方程式）とそのいくつかの解について勉強する。さらに、簡便化された境界層方程式から、物体表面で発生する摩擦抵抗を調べる。これに関連して、粘性による剥離現象を理解し、その結果起る圧力抵抗も勉強する。これらに加えて、流体と熱との相互関係も理解する。最後に、乱流の基礎を勉強し、乱流モデルについても学習する。				
●バックグラウンドとなる科目					
1. 数学					
2. 物理（力学）					
3. 非圧縮性流体力学					
●授業内容	1. 粘性流に対する支配方程式 2. ナビエ・ストークスの方程式の厳密解 3. 境界層 4. 剥離現象 5. 空力係数 6. 流れと熱の関係 7. 乱流の基礎 8. 乱流モデル				
●教科書	航空宇宙工学専攻流体力学教室のホームページ(http://fluid.nuae.nagoya-u.ac.jp)からテキストをダウンロードできる。				
●参考書	一般的な流体力学の教科書				
●評価方法と基準	レポート、筆記試験				
●履修条件・注意事項					
●質問への対応	ティーチングアシスタント(TA)に聞く				
●本講座の目的およびねらい	すべての物理現象の巨視的な理解の基礎となる現象論的な古典熱力学の基礎概念、物理的意味および計算方法を習得する。また、マクロな概念のミクロな物理的意味を理解する。				
●授業内容	1. 热平衡、热力学第1法則および热力学第2法則を理解し、説明できる。 2. エントロピー、自由エネルギー等の热力学関数とその関係式を理解する。 3. 平衡条件や相変化、化学反応に関する初等的知識を習得する。 4. 簡単な気体分子運動論を学習し、マクロな热力学の理解を深める。				
●教科書	山下教授のクラス 機械工学エッセンス4 热力学：山下博史（培風館）				
吉川教授のクラス	热力学：三宅哲（笠原房）				
●参考書	热力学：三宅哲（笠原房）、 热学：小出昭一郎（東京大学出版会）、 热力学および統計物理入門(上、下)：キャレン著、小田垣孝志（吉岡書店）				
●評価方法と基準	中間試験(30%)、期末試験(60%)、提出課題(10%)で評価する。ただし、中間試験を行わない場合は期末試験(90%)、提出課題(10%)で評価する。				
●履修条件・注意事項	総合点100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：Fとする。 但し、平成22年度以前の入学者については、100～80点：優, 79～70点：良, 69～60点：可, 59点以下：不可とする。				
●質問への対応					

熱力学及び演習 (2.5単位)					
質問への対応：講義中、講義終了時、又は電話かメールで連絡。					
担当教員連絡先：山下（内4470、yamashita@mech）、吉川（内4411、yoshikawa@yoshilab.nuae）					
<hr/>					
伝熱工学 (2.0単位)					
科目区分	専門基礎科目				
授業形態	講義				
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学		
開講時期	1 3年前期	3年前期	3年前期	3後期	3後期
選択／必修	選択	選択	選択	選択	必修
教員	成瀬 一郎 教授	笠原 次郎 教授			
<hr/>					
●本講座の目的およびねらい					
熱移動の基本形態である熱伝導、対流熱伝達、熱放射の基礎的な概念と物理的意味を理解するとともに、その応用である熱交換器等の理論について学び、伝熱工学の基礎理論を習得する。達成目標・フーリエの法則により、定常および非定常熱伝導現象を理解できる。・強制および自然対流熱伝達の物理的メカニズムについて説明できる。・熱放射の基本法則・射出率と角関係・閉空間理論					
●バックグラウンドとなる科目					
熱力学及び演習、エネルギー変換工学、流体工学第1及び演習、流体工学第2、数学1及び演習、数学2及び演習					
●授業内容					
1. 伝熱機構の概要 2. 热伝導 热伝導の法則と熱伝導方程式・定常熱伝導・非定常熱伝導 3. 対流熱伝達 強制対流・自然対流・総括熱伝達 4. 热放射 热放射の基本法則・射出率と角関係・閉空間理論 5. 热交換器 並流・向流・N.T.U					
●教科書					
必要に応じプリントを配布					
●参考書					
伝熱概論：甲藤好郎著（養賢堂）、伝熱学：西川兼康・藤田恭伸共著（理工学社）					
●評価方法と基準					
試験(90%)と出席率(10%)で評価。					
●履修条件・注意事項					
●質問への対応					
メールにて対応					

設計基礎論 (2.0単位)					
科目区分	専門基礎科目				
授業形態	講義				
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学		
開講時期	1 3年前期	3年前期	3年前期	2年前期	2年前期
選択／必修	選択	選択	選択	選択	選択
教員	森田 康之 准教授				
<hr/>					
機構学 (2.0単位)					
科目区分	専門基礎科目				
授業形態	講義				
対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学		
開講時期	1 2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
選択／必修	選択	選択	選択	選択	選択
教員	山田 隅滋 教授	大日方 五郎 非常勤講師			
<hr/>					
●本講座の目的およびねらい					
機械構造物の製作に際して必要となる機械設計法について、その基礎的知識を習得する。機械設計の基礎的概念および材料選択に必要とされる諸特性を理解することによって、要素設計における問題点を把握するとともに、設計に際して必要とされる解析手法を学ぶ。					
達成目標					
1. 機械設計の基本概念を理解し、説明できる。 2. 機械材料の諸特性を理解し、説明できる。 3. 耐用期間に応じた要素設計ができる。 4. 積偶条件に応じた寿命評価ができる。					
●バックグラウンドとなる科目					
機械設計第1、材料力学及び演習、固体力学					
●授業内容					
1. 機械設計の方法論 2. 機械材料の概説 3. 強度設計の基礎 4. 生産設計との関連事項					
●教科書					
プリントを用意し、適宜配布する。					
●参考書					
機械設計便覧、機械設計便覧編集委員会、丸善					
●評価方法と基準					
達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験90%、課題レポートを10%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。					
●履修条件・注意事項					
●質問への対応					
適宜受け付ける。					
連絡先：morita@mech.nagoya-u.ac.jp 内線：4673					
<hr/>					
2.3次元の運動学的解析に関してはロボット工学関係の教科書が参考になる。たとえば、					
1)吉川恒夫：ロボット制御基礎論、コロナ社、2005、ISBN 978-4-339-04069-2 2)日本機械学会：機構学、丸善、2008、ISBN 978-4-88898-167-5 3)Hamilton H. Mable, Charles F. Reinholz: Mechanisms and Dynamics of Machinery, John Wiley and Sons, Inc., 1987, ISBN 13-978-0-471-80237-2 4)Asok Kumar Mallik, Amitabha Ghosh, Gunter Dittrich: Kinematic Analysis and Synthesis of Mechanisms, CRC Press Inc., 1994, ISBN 0-8493-9121-0					
●評価方法と基準					
宿題レポート(55%)および中間試験+期末試験(45%)の得点によって評価を行う。					
●履修条件・注意事項					
●質問への対応					
授業中の質問を歓迎する。授業後は、TAが窓口になって質問に対応する。					
電子メールアドレス：yanada-yoji@mech.nagoya-u.ac.jp					

振動学及び演習 (2.5単位)		制御工学第1及び演習 (2.5単位)	
科目区分	専門基礎科目	科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義及び演習	授業形態	講義及び演習
対象履修コース	機械システム工学	対象履修コース	機械システム工学
開講時期1	2年後期	開講時期1	2年後期
選択／必修	必修	選択／必修	必修
教員	井上 刚志 教授 原 進 准教授 安藤雅彦 助教	教員	早川 義一 教授 関山 浩介 准教授 中島 明助 教授 中島 正博 助教
●本講座の目的およびねらい	この講義では、機械の動的設計や構造解析を行うときに必要となる振動工学の基礎を学習する。また、多くの演習問題を解くことにより、具体的な問題を解く応用力を養う。	●本講座の目的およびねらい	伝達関数と周波数応答法に基づく制御系設計の考え方を学ぶ。本講義と後に学ぶ「制御工学第2」の修得によって、制御工学の基礎力と応用力を養う。
●パックグラウンドとなる科目	力学1及び演習、力学2及び演習、機械学	●達成目標：	1. 伝達関数、ブロック線図が理解でき、基礎的な力学系、電気回路などの制御対象に対して、伝達関数、ブロック線図が求められる。 2. 周波数特性が理解・説明でき、その図的表現の概形を作成できる。 3. フィードバック制御系の安定性、過渡特性、定常特性が理解・説明できる。
●授業内容	1. 振動と波動の解析（運動方程式、調和回数、フーリエ級数） 2. 1自由度系の自由振動（無減衰系の自由振動、減衰系の自由振動） 3. 1自由度系の強制振動（無減衰系の強制振動、粘性減衰系の強制振動、クーロン減衰系の強制振動、振動絶縁） 4. 2自由度系の振動（自由振動、強制振動、動吸振器） 5. 多自由度系の振動（モード解析、固有値と固有ベクトル、基準座標、ラグランジュの方程式）	●パックグラウンドとなる科目	●授業内容
●教科書	石田幸男・井上剛志著、「機械振動工学」、培風館	1. 制御系設計の概要（古典制御） 2. 制御系のモデルリング 3. 特性的解析 4. 周波数応答とボード線図 5. 安定性の判定法と安定余裕 6. 制御系設計	
●参考書		●教科書	古典制御論、吉川恒夫 著、昭晃堂
●評価方法と基準	筆記試験(80%)と提出課題(20%)を基に、総合的に100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前入学者については次の通り： 60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。	●参考書	自動制御工学概論(上)、伊藤正美 著、昭晃堂 システムと制御、早川義一編、オーム社
●履修条件・注意事項		●評価方法と基準	中間試験、期末試験、演習レポートを基に、総合点60点以上を合格とし、 ・平成23年度以前入学者： 100～90点を「S」、89～80点を「A」、79～70点を「B」、69～60点を「C」、59点以下を「F」とする。 ・平成22年度以前入学者： 100～80点を「優」、79～70点を「良」、69～60点を「可」、59点以下を「不可」とする。
●質問への対応	質問への対応：講義終了時を主とするが、メールで予約すればそれ以外の時間も可。	●履修条件・注意事項	
●質問への対応		●質問への対応	

制御工学第2 (2.0単位)		計算機ソフトウェア第1 (2.0単位)	
科目区分	専門基礎科目	科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	機械システム工学	対象履修コース	機械システム工学
開講時期1	3年前期	開講時期1	1年前期
選択／必修	必修	選択／必修	必修
教員	早川 義一 教授 坂本 登 准教授	教員	松本 敏郎 教授 奥村 大 准教授
●本講座の目的およびねらい	状態空間法に基づく、時間領域での制御系の設計手法の基礎を学ぶ。 前半で学んだ「制御工学第1」と本講義の修得によって、制御工学の基礎力および応用力を養う。	●本講座の目的およびねらい	コンピュータシステムの取り扱いと、Fortran言語によるプログラミングについて学習する。授業は教科書を中心とした講義を行うとともに、各自が実際にコンピュータを使ってプログラムを作成する演習を行う。 ●達成目標 1. コンピュータの取り扱い方を理解し、各種ソフトウェアや電子メールを正しく利用できる。 2. Fortran 言語を理解し、簡単なFortranプログラムを作成できる。 3. 数値解析のアルゴリズムを理解し、簡単な数値解析プログラムが作成できる。
●達成目標：	1. 可制御性、可観測性を理解し判定できる。 2. レギュレータを設計できる。 3. 状態観測器を設計できる。	●パックグラウンドとなる科目	特になし
●パックグラウンドとなる科目	制御工学第1 及び演習	●授業内容	1. コンピュータシステムの基礎（ソフトウェアや電子メールの使い方、情報セキュリティ研修など） 2. プログラミングの基礎（プログラム言語、コンパイルと実行など） 3. Fortran言語の基礎（READ, WRITE, DO, IFなど） 4. Fortran プログラムの基礎（配列、関数、サブルーチンなど） 5. 数値解析プログラミング（加減乗除、面積、平均値、数値積分など）
●授業内容	1. 状態空間法に基づく制御系設計の概要 2. モデリング（システムの状態と状態方程式、状態方程式の解と安定性、状態方程式と伝達関数） 3. システムの解析（可制御性と可観測性、システムの構造、実現問題） 4. レギュレータ問題（状態フィードバックと極配置、最適制御） 5. 状態観測器（完全次元オブザーバー、最小次元オブザーバーとその設計法）	●教科書	ガ・Fortran 90/95、戸川隼人、サイエンス社 (1999)。また、必要に応じてプリント等を配布する。
●参考書	吉川、井村：現代制御論(昭晃堂)	●参考書	初心者のための FORTRAN77 プログラミング、第2版、富田豊他、共立出版 (1995)
●参考書	伊藤：自動制御概論(下) (昭晃堂) 早川 他：新インターユニバーシティ システムと制御 (オーム社)	●評価方法と基準	達成目標に対する評価は均等に重みづけして評価する。期末試験50%、レポート課題提出物25%、受講態度25%で評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
●評価方法と基準	達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験60%、課題レポートを40%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 ・平成23年度以降入学者： 100～90点を「S」、89～80点を「A」、79～70点を「B」、69～60点を「C」、59点以下を「F」とする。	●履修条件・注意事項	
●履修条件・注意事項	・平成22年度以前入学者： 100～80点を「優」、79～70点を「良」、69～60点を「可」、59点以下を「不可」とする。	●質問への対応	
●質問への対応	である。		

<p align="center">情報基礎論 (2.0単位)</p> <hr/> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門基礎科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>1 2年後期 2年後期 2年後期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択 選択 選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>福澤 健二 教授 伊藤 伸太郎 講師</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 情報の形態・伝送、情報の処理、情報の蓄積を扱う情報工学の基礎として、情報量の定義と性質、情報源・通信路モデル、情報源・通信路の符号化等を学習する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 情報科学 2. 情報量とエントロピー 3. 情報源と情報源符号化（記憶のない情報源、エルゴード情報源、マルコフ情報源、瞬時符号、クラフトの不等式、ハフマン符号化、ブロック符号化） 4. 通信路と通信路符号化（通信路モデル、通信路容量、情報伝送速度、パリティ検査、ハミング距離、誤り訂正、バースト誤り）</p> <p>●教科書 国際 情報理論入門：野村由司彦（コロナ社）</p> <p>●参考書 情報理論：今井秀樹（昭晃堂） 情報のはなし：大村平（日科技連）</p> <p>●評価方法と基準 筆記試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	科目区分	専門基礎科目	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	開講時期	1 2年後期 2年後期 2年後期	選択／必修	選択 選択 選択	教員	福澤 健二 教授 伊藤 伸太郎 講師	<p align="center">電気回路工学 (2.0単位)</p> <hr/> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門基礎科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>1 2年後期 2年後期 2年後期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>必修 必修 必修</td></tr> <tr><td>教員</td><td>式田 光宏 准教授 鈴木 達也 教授</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 回路素子の基本的な性質や回路内の動作を現象的に理解した上で、回路の記号解説法、電気回路の動的現象を学び、電気工学における基礎力学を養う。また、機械振動系との類似にも着目し、工学的な総合力を養う。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交流回路における記号解説ができる。 2. 線形回路網を閉路方程式にて解説できる。 3. 回路網における各種定理を理解し解説できる。 <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学第1及び演習、線形代数学1</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直流回路解説 2. 交流回路解説 3. 過渡現象解説 4. 機械振動系とのアナロジ <p>●教科書 基礎電気回路I（第2版）：有馬・岩崎（森北出版）</p> <p>●参考書 基礎電気回路：雨宮（オーム社），電気回路：エドミニスター著（村崎ほか訳）（マグロウヒル）</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験100点満点で評価し、60点以上を合格とする</p> <p>〈平成23年度以降入学者〉 100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F</p> <p>〈平成22年度以前入学者〉 100～80点：優, 79～70点：良, 69～60点：可, 59点以下：不可</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義終了後教室か教員室で受け付ける。 担当教員連絡先： 鈴木 内線2700, t_suzuki@nue.mech.nagoya-u.ac.jp 式田 内線5031, shikida@mech.nagoya-u.ac.jp</p>	科目区分	専門基礎科目	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	開講時期	1 2年後期 2年後期 2年後期	選択／必修	必修 必修 必修	教員	式田 光宏 准教授 鈴木 達也 教授
科目区分	専門基礎科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学																								
開講時期	1 2年後期 2年後期 2年後期																								
選択／必修	選択 選択 選択																								
教員	福澤 健二 教授 伊藤 伸太郎 講師																								
科目区分	専門基礎科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学																								
開講時期	1 2年後期 2年後期 2年後期																								
選択／必修	必修 必修 必修																								
教員	式田 光宏 准教授 鈴木 達也 教授																								

<p align="center">精密加工工学 (2.0単位)</p> <hr/> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門基礎科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>1 3年前期 3年前期 3年前期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>必修 必修 選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>社本 英二 教授 梅原 徳次 教授</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 素材から製品を創出する生産プロセスの中で、製品性能に大きな影響を与える精密加工の基礎として、切削加工、砥粒加工、特殊加工および工作機械について学習する。まず、これらの精密加工ノウハウが生産プロセス全体の中でのどのように位置づけられるかを把握する。次に、各精密加工法および工作機械について、それぞれ簡明な理論や基礎的な機構、さらに実際の加工プロセスで生じる現象などについて学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 なし</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 切削加工 セン断面モデル、せん断角理論、切削温度、切りくず処理性、切削抵抗、切削工具の材種と消耗 (仕上げ面性状とその要因、切削油剤と快削添加物) 2. 砥粒加工と特殊加工 研削加工序説、分類、低石 (砥粒、粒度) 砕石 (結合剤、結合度、組織)、砥粒の切れ刃分布、自づれ加工 研削の幾何学、高精度研削 逆離研粒による加工とその材料除去機構 各種特殊加工法 3. 工作機械 工作機械の歴史と種類 工作機械の運動誤差、振動問題および熱変形工作機械の数値制御とサーボ機構</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 期末試験により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	科目区分	専門基礎科目	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	開講時期	1 3年前期 3年前期 3年前期	選択／必修	必修 必修 選択	教員	社本 英二 教授 梅原 徳次 教授	<p align="center">計測基礎論 (2.0単位)</p> <hr/> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門基礎科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>1 3年前期 3年前期 3年前期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択 選択 選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>泰 詩一 教授</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 計測は、科学と工学の基盤であり基礎である。 教科書の理論のみならず現実の計測、データおよび信号処理において注意すべき点や、データ収集など、卒業研究などにおいて自ら実験を行う際に基礎となる内容を講義する。</p> <p>達成目標</p> <p>基礎力：計測と測定、誤差と精度など用語を正しく理解し、使用できる。 説明できる。 応用力：基礎的知識を、実際の計測を行ふために応用できる。 創造力：総合力：実際の測定を行ふために適切なセンサ及び計測回路と、信号処理、データ処理を適切に選択することができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 数学1及び演習、数学2及び演習、振動学及び演習、制御工学第1及び演習、電機回路工学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要 (計測とは？工学における計測的重要性) 2. 単位と標準 3. 誤差と精度 4. データ処理の基礎 5. センサとセンシング基礎 6. 信号計測 7. データ収集、信号処理 <p>●教科書 計測システム工学の基礎 第3版：西原主計、山藤和男、松田康広（森北出版）</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 試験および数回のレポート</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし</p> <p>●質問への対応 教員電話：5223 メール：hata@mech.nagoya-u.ac.jp</p>	科目区分	専門基礎科目	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	開講時期	1 3年前期 3年前期 3年前期	選択／必修	選択 選択 選択	教員	泰 詩一 教授
科目区分	専門基礎科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学																								
開講時期	1 3年前期 3年前期 3年前期																								
選択／必修	必修 必修 選択																								
教員	社本 英二 教授 梅原 徳次 教授																								
科目区分	専門基礎科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学																								
開講時期	1 3年前期 3年前期 3年前期																								
選択／必修	選択 選択 選択																								
教員	泰 詩一 教授																								

機械・航空工学科授業 (2.0単位)						動的システム論 (2.0単位)							
科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
教員	各教員 (航空宇宙)	選択	選択	開講時期	1年前期	1年前期	1年前期	選択	選択	開講時期	3年後期	3年後期	3年後期
教員	各教員 (機械科学)	各教員 (電子機械)		選択／必修				教員	宇野 洋二 教授	教員	新井 史人 教授		
●本講座の目的およびねらい	機械・航空工学科に関連する専門分野の概要を学ぶ。	●本講座の目的およびねらい	非線形システムの安定性を中心とした動的挙動の解析法の基礎を学ぶ。										
●バックグラウンドとなる科目	●バックグラウンドとなる科目	達成目標	1. 電気系、機械系などの諸物理システムを状態方程式で表現できる。 2. リヤブノフの安定定理を理解し、非線形自律システムの安定性の判別に応用できる。 3. スモール・ゲイン定理や受動定理を理解し、システムの入出力安定性の判別に応用できる										
●授業内容	●授業内容	●授業内容	1. 動的システムの表現 2. 物理システムのモデリング 3. システムの安定性と正定関数 4. リヤブノフの安定定理 5. 大域的漸近安定性 6. 線形近似と安定性 7. 入出力安定 8. 非線形振動システム										
機械・航空工学科に関連する専門分野の概要と最近のトピックスを紹介する。		●教科書	動的システム論、鈴木正之他著 (コロナ社)										
●教科書		●参考書	講義資料を適宜配布する。										
●評価方法と基準		●評価方法と基準	レポート及び試験										
筆記試験及び出席状況		●履修条件・注意事項											
●履修条件・注意事項		●質問への対応	講義終了時に応じる。またメールでの質問も受け付ける。 担当教員連絡先 : <宇野> 内線: 2739 E-mail: uno@puen.nagoya-u.ac.jp <新井> 内線: 5025 E-mail: arai@mech.nagoya-u.ac.jp										
●質問への対応													

量子力学基礎 (2.0単位)						材料科学第2 (2.0単位)							
科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学	授業形態	講義	対象履修コース	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学
教員	非常勤講師 (機科)	選択	選択	開講時期	3年後期	3年後期	3年後期	選択／必修	選択	開講時期	3年前期	3年前期	3年前期
●本講座の目的およびねらい	ミクロの世界で現れる量子現象の本質を理解する。	●本講座の目的およびねらい	金属材料の機械的性質を軸位等の内部構造の観点から学ぶ。まず、金属材料の種々の強度特性を概説する。次に、このような強度特性を内部構造に基づいて理解し、さらに強化の機構を微視的観点から学習する										
●バックグラウンドとなる科目	力学、電磁気学	●バックグラウンドとなる科目	●強化目標 :										
●授業内容	1. 量子力学に基づく自然現象の解釈 2. 量子力学の基礎 3. 量子力学の定式化 4. 水素原子の量子状態 5. スピン、相対論的量子論 6. 多電子原子 (ハウリの排他律、周期律) 7. 近似解法 8. 相互作用	1. 金属材料の塑性変形を軸位の観点から説明できる。 2. 軸位のエネルギー、すべり系、増殖について説明できる。 3. 降伏現象と軸位の関連を説明できる。 4. 強化機構、ひずみ硬化・回復について微視的観点から説明できる。											
●教科書	量子力学: 森敏彦、妹尾允史著 (共立出版)	●参考書	●バックグラウンドとなる科目										
●参考書		●評価方法と基準	材料科学第1、材料力学及び演習										
●評価方法と基準		●履修条件・注意事項	●評価方法と基準										
試験、課題		●質問への対応	期末試験80%、課題レポート20%により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上100点までをSとする。但し、平成22年度以前の入学者については、80点以上をAとする。										
●履修条件・注意事項		●質問への対応	●質問への対応										
●質問への対応		●質問への対応	講義終了時に応じる。担当教員連絡先 : 内線 4 7 5										

計算機ソフトウェア第2 (2.0単位)				
科目区分	専門科目	数理計画法 (2.0単位)		
授業形態	講義及び演習	授業形態	講義	
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	
開講時期1	1年後期	開講時期1	4年前期	4年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択	選択
教員	武市 畿准教授 森田 康之 准教授	教員	田地 宏一 准教授	
●本講座の目的およびねらい	C言語について学習を行うとともに、科学技術計算に用いられる基本的な数値解析法の理論及びプログラミング手法を学ぶ。 達成目標 1. C言語で書かれたプログラムの内容が理解できる。 2. C言語でプログラムを作成することができる。 3. 基本的な数値解析法を理解し、プログラムにすることができる。			
●バックグラウンドとなる科目	計算機ソフトウェア第1 数学（微分・積分、線形代数）			
●授業内容	1. C言語文法 1)変数の型宣言 2)式と演算子 3)制御文 4)関数 5)配列、他 2. 応用プログラム 1)数値積分 2)微分方程式の解法 3)連立一次方程式の解法、他			
●教科書	新版 明解C言語 入門編：柴田望洋（ソフトバンク）			
●参考書	プログラミング言語C：（共立出版） Numerical Recipes in C：（技術評論社）			
●評価方法と基準	達成目標に対する評価の重みは同じである。 期末試験50%，課題レポート50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。			
●履修条件・注意事項	●質問への対応 適宜受け付ける。 連絡先：takeichi@nuae.nagoya-u.ac.jp, ext. 5431, morita@mech.nagoya-u.ac.jp, ext. 4673			
●評価方法と基準	レポート50%+期末試験50% <平成23年度以降入学者> 100~90点：S, 89~80点：A, 79~70点：B, 69~60点：C, 59点以下：F <平成22年度以前入学者> 100~80点：優, 79~70点：良, 69~60点：可, 59点以下：不可			
●履修条件・注意事項	●質問への対応 http://www.uno.nuem.nagoya-u.ac.jp/~taji/lecture/lecture.html 質問への対応：講義終了時その他、時間外も随時受け付けるが、事前に担当教員にメール（アドレスは講義時にお知らせします）で時間を打ち合わせておくこと。			

電磁力学 (2.0単位)				
科目区分	専門科目	電子回路工学 (2.0単位)		
授業形態	講義	授業形態	講義	
対象履修コース	電子機械工学 航空宇宙工学	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	
開講時期1	2年後期	開講時期1	3年前期	3年前期
選択／必修	選択	選択／必修	必修	選択
教員	酒井 武治 准教授	教員	高木 賢太郎 講師 長野 方星 准教授	
●本講座の目的およびねらい	静的および動的電磁場の基本法則について学習し、電磁場の支配方程式であるマクスウェル方程式について理解する。大学初年度で学んだ数学を使って基本法則を定式化し、応用力を身につける。			
●バックグラウンドとなる科目	2年前期までに対象履修コースに対して提供されている数学および力学すべて。			
●授業内容	1. 電流と磁場 2. 電磁誘導 3. マックスウェル方程式 4. 準静的電磁場 5. 電磁波			
●教科書	松本光祐著「電磁気学」（共立出版）と配布プリント			
●参考書	高村秀一「電磁気学入門」（森北出版） 砂川重信著「電磁気学」（培風館）と配布プリント			
●評価方法と基準	宿題、試験			
●履修条件・注意事項	●質問への対応			
●評価方法と基準	期末試験及びレポートを基に、100点満点で総合点60点以上を合格とする。 ・平成23年度以降入学者： 100~90点を「S」, 89~80点を「A」, 79~70点を「B」, 69~60点を「C」, 59点以下を「F」とする。 ・平成22年度以前入学者： 100~80点を「優」, 79~70点を「良」, 69~60点を「可」, 59点以下を「不可」とする。			
●履修条件・注意事項	●質問への対応			
●質問への対応	基本的に講義終了時に対応する。それ以外は、担当教員に電話かメールで連絡すること。			

信号処理 (2.0単位)	
科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	電子機械工学 航空宇宙工学
開講時期	3年後期
選択／必修	選択
教員	大岡 昌博 教授
●本講座の目的およびねらい	
信号処理系の解析、機械振動系の解析、生体信号の分析など、幅広い分野で利用される信号処理は、信号を正確に効率よく伝送・記憶し、信号からさまざまな情報を抽出するために行われる。本講義では、フーリエ変換からデジタルフィルタの設計まで、信号処理の基礎理論を解説する。	
●バックグラウンドとなる科目	
数学1及び演習、数学2及び演習、制御工学第1及び演習、制御工学第2	
●授業内容	
第1回 信号処理とは、第2回 信号処理の例、第3回 数学的準備、第4回 フーリエ級数展開、第5回 離散フーリエ変換と高速フーリエ変換、第6回 フーリエ変換1、第7回 フーリエ変換2（レポート課題1）、第8回 フーリエ変換の応用、第9回 線形システムの解析、第10回 ζ 変換、第11回 離散システムの解析、第12回 サンプリングと窓、第13回 フィルタ、第14回 デジタルフィルタ（レポート課題2）、第15回 演習問題	
●教科書	
●参考書	
雨宮好文 監修／佐藤幸男 著、信号処理入門、オーム社	
浜田望、よくわかる信号処理、オーム社	
野村由司彦、図解 情報処理入門、三ツ星出版	
信号処理工学 一信号・システムの理論と処理技術一、今井聖 著、コロナ社	
●評価方法と基準	
レポートおよび筆記試験	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	
質問への対応：講義終了時や適当な時間に対応する。	
担当教員連絡先：ohka@is.nagoya-u.ac.jp	
講義録： http://ms1.ohka.cs.is.nagoya-u.ac.jp/new_page_8.htm	
飛行力学 (2.0単位)	
科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期	3年前期
選択／必修	必修
教員	山田 克彦 教授
●本講座の目的およびねらい	
ロケットおよび飛行機の飛行運動の基礎を習得する。ロケットの運動性能と軌道、飛行機の定常飛行と飛行性能について学ぶ。	
●バックグラウンドとなる科目	
力学、非圧縮性流体力学	
●授業内容	
1. 投射体の運動 2. ロケットの飛行運動 3. 航空機の定常飛行運動 4. 航空機の姿勢運動と安定性	
●教科書	
●参考書	
室津義定編著「航空宇宙工学入門」森北出版、富田信之著「宇宙システム入門」東京大学出版会加藤寛一郎ほか「航空機力学入門」東京大学出版会	
●評価方法と基準	
期末試験とレポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	
質問への対応：講義終了時に応答する。	
担当教員連絡先：内線 4416、kyamada@nuae.nagoya-u.ac.jp	

非圧縮性流体力学 (2.0単位)	
科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期	2年前期
選択／必修	必修
教員	中村 佳朗 教授
●本講座の目的およびねらい	
低速で飛行する航空宇宙機の翼などの2次元物体に作用する空気力について非粘性非圧縮性流体力学の理論に基づいて勉強する。具体的には、ボテンシャル流、渦運動、翼に作用する力やモーメント、薄翼理論などを、複素数論や微分積分などの数学の基礎理論を応用して解析し、空気力学に関する基本事項を習得する。	
●バックグラウンドとなる科目	
1. 数学 2. 力学	
●授業内容	
1. 非粘性非圧縮性流れに対する支配方程式（質量、運動量、エネルギーの保存） 2. 渦と循環（渦の基本的性質、渦による誘導速度、渦の圧力分布） 3. 流れ凹凸と速度ボテンシャル 4. ベルヌーイの式と圧力方程式 5. 2次元ボテンシャル流（複素速度ボテンシャル） 6. 等角写像（円から翼形状への変換） 7. 翼に働く空気力（ラシットスの定理、クッタ・ジュコフスキの定理） 8. 薄翼理論 9. 3次元翼理論	
●教科書	
航空宇宙工学専攻流体力学研究室のホームページ (http://fluid.nuae.nagoya-u.ac.jp) からpdfファイルのテキストをダウンロードできる。	
●参考書	
特になし	
●評価方法と基準	
1. レポート 2. 筆記試験	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	
ティーチングアシスタントに問い合わせること	
圧縮性流体力学 (2.0単位)	
科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期	3年前期
選択／必修	必修
教員	佐宗 章弘 教授
●本講座の目的およびねらい	
理気体に関する、衝撃波、圧縮波、膨張波を伴う流れの性質と、非定常流れ、超音速流れ、ノズル流れなどについて講義し、圧縮性流れの基礎を習得することを目的とする。	
●バックグラウンドとなる科目	
熱力学、(非圧縮性)流体力学	
●授業内容	
1. 圧縮性流れとは 1. 1 波の伝播 1. 2 一次元粒子列の運動 2. 流体および流れの基礎式 2. 1 気体粒子の運動と状態方程式 2. 2 流れの保存式 2. 3 ガリレイ変換 2. 4 流れに現れる不連続面 3. 一次元の圧力波と流れ 3. 1 音波 3. 2 圧縮波、膨張波 3. 3 垂直衝撃波 3. 4 圧力波・界面の干渉(リーマン問題) 4. 生成項を伴う一次元流れ 4. 1 定常準一次元流れと影響係数 4. 2 一般化されたランキン-ユゴニオ式 4. 3 デトネーション、デトネーションエンジン 4. 4 ラム加速器、スクラムジェット 5. 二次元超音速定常流れ 5. 1 マッハ波 5. 2 圧縮波、膨張波とPrandtl-Meyer関数 5. 3 斜め衝撃波 6. ノズル、ディフューザー 6. 1 ノズル 6. 2 ディフューザー 7. 実際の圧縮性流れ 7. 1 再突入流れ 7. 2 超音速飛行機とソニックブーム 7. 3 爆風 7. 4 圧縮性流れの実験と可視化	
●教科書	
毎回プリントを用意する	
●参考書	
1. Modern Compressible Flow J.D.Anderson,Jr(McGraw-Hill) 2. 気体力学：リーブマン、ロシュコ(吉岡書店)	
●評価方法と基準	

<p><u>圧縮性流体力学 (2.0単位)</u></p> <p>小テスト(毎回)50%、課題レポート(毎回)を50%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。 期末試験は実施しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 <p>担当教員連絡先：内線 4402 sasoh@nuae.nagoya-u.ac.jp 時間外の質問は、事前に担当教員に電話がメールで時間を打ち合わせること</p>	<p><u>気体燃焼論 (2.0単位)</u></p> <table border="0"> <tr> <td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr> <td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr> <td>開講時期</td><td>1年後期</td></tr> <tr> <td>選択／必修</td><td>必修</td></tr> <tr> <td>教員</td><td>吉川 典彦 教授</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい 既修得の気体力学・熱力学に加えて、新たに化学熱力学、化学反応、輸送現象の基礎を修得する。 以下に達成目標と凡そそのエイドを[]で示す。 1. 化学平衡・素反応・輸送現象の基礎を理解し、簡単な計算ができる。 [40%] 2. 着火現象・デトネーション・火炎を理解し、簡単な計算ができる。 [35%] 3. 窒素酸化物の反応機構について理解し、簡単な計算ができる。 [15%] 4. 可視化技術等の基礎的実験方法と原理を理解する。 [10%] ●バックグラウンドとなる科目 熱力学及び演習、圧縮性流体力学 ●授業内容 1. 気体化学熱力学の基礎 2. 気体化学素反応 3. 燃焼限界、反応誘起時間 4. 混合気中を伝播する燃焼波 5. 輸送現象の基礎と気体燃焼基礎方程式 6. パーナー火炎 7. 燃焼汚染物質(窒素酸化物を中心) 8. レポートと期末試験 ●教科書 印刷した講義ノートを配布する。 ●参考書 燃焼工学：大竹一友、藤原俊隆、コロナ社。 Principles of Combustion, 2nd ed.: K.K.Kuo, Wiley. ●評価方法と基準 レポート30%，期末試験70%で評価して、100点満点で60点以上を合格とする。 ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 連絡先：工学研究科2号館477号室、内線4411、yoshi1467@live.jp 	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	1年後期	選択／必修	必修	教員	吉川 典彦 教授
科目区分	専門科目												
授業形態	講義												
対象履修コース	航空宇宙工学												
開講時期	1年後期												
選択／必修	必修												
教員	吉川 典彦 教授												

<p><u>原動機要素論 (2.0単位)</u></p> <table border="0"> <tr> <td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr> <td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr> <td>開講時期</td><td>3年前期</td></tr> <tr> <td>選択／必修</td><td>選択</td></tr> <tr> <td>教員</td><td>笠原 次郎 教授</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい ジェットエンジン構成要素の基本原理、基本特性とその解析法について学ぶ。 ●バックグラウンドとなる科目 熱力学及び演習、流体力学基礎論及び演習、粘性流体力学、圧縮性流体力学、伝熱工学 ●授業内容 1. ジェットエンジン概要: 2. 空気取入口: 3. 燃焼器: 4. 遠心・軸流圧縮機の熱空気力学: 5. 遠心・軸流ターピンの熱空気力学: 6. 排気ノズル: 7. 最近の話題 ●教科書 ●参考書 ●評価方法と基準 試験及びレポート ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	3年前期	選択／必修	選択	教員	笠原 次郎 教授	<p><u>宇宙航行力学 (2.0単位)</u></p> <table border="0"> <tr> <td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr> <td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr> <td>開講時期</td><td>1年後期</td></tr> <tr> <td>選択／必修</td><td>選択</td></tr> <tr> <td>教員</td><td>山田 克彦 教授</td></tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい 人工衛星やロケットのような宇宙飛行体の軌道運動の基礎を習得する。ケプラー運動をもとに、中心天体が2つある場合の運動、摂動力の加わる場合の運動、2機以上の宇宙飛行体が相対的に運動する場合の運動について学ぶ。達成目標 1. 軌道運動の基本概念を理解し説明できる。 2. 2体問題に関する計算ができる。 3. 物理的内容を理解し説明できる。 ●バックグラウンドとなる科目 力学 ●授業内容 1. 2体問題 ケプラー運動、軌道要素 2. 2体問題の応用 ホーマン遷移、惑星間飛行 3. 制限3体問題 ラグランジュ点、ハロー軌道 4. 軌道運動の摂動 惑星方程式、重力歪みの影響 5. 相對運動 ランデブー・ドッキング、編隊飛行 ●教科書 講義資料配布 ●参考書 富田信之著「宇宙システム入門」東京大学出版会 木下宙著「天体と軌道の力学」東京大学出版会 M.H. Kaplan: Modern Spacecraft Dynamics and Control, John Wiley and Sons M.J. Sidi: Spacecraft Dynamics and Control, Cambridge University Press ●評価方法と基準 期末試験とレポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。 ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応：講義終了時に応答する。 担当教員連絡先：内線 4416 kyamada@nuae.nagoya-u.ac.jp 	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	1年後期	選択／必修	選択	教員	山田 克彦 教授
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	3年前期																								
選択／必修	選択																								
教員	笠原 次郎 教授																								
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	1年後期																								
選択／必修	選択																								
教員	山田 克彦 教授																								

<p align="center"><u>応用構造理論 (2.0単位)</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>3年前期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>池田 忠繁 准教授</td></tr> </table> <p>●本講座の目的およびねらい 構造力学と関連して、振動学、材料力学などとの境界領域の研究および他分野への応用の基礎について学ぶ。</p> <p>達成目標 1. 連続体の振動現象を定式化できる。 2. 振動方程式を解くことができる。 3. 振動現象を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 力学I、力学II、数学I及び演習、材料力学及び演習、固体力学、振動学及び演習</p> <p>●授業内容 1. 梁の曲げ振動・棒の振れ振動 2. 棒の曲げと振れの連成振動 3. 自励振動 4. 振動に関する話題</p> <p>●教科書 弹性力学：小林繁夫、近藤恭平（培風館） 振動論：近藤恭平（培風館）</p> <p>●評価方法と基準 試験により目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 随時対応する。 E-mail: ikeda@nuae.nagoya-u.ac.jp</p>	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	3年前期	選択／必修	選択	教員	池田 忠繁 准教授	<p align="center"><u>飛行安定操縦性論 (2.0単位)</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>3年後期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>武市 昇 准教授</td></tr> </table> <p>●本講座の目的およびねらい 航空機の運動を特徴づける安定微係数を理解し、航空機の固有運動モードや安定操縦性について学ぶ。</p> <p>達成目標 1. 剛体の運動方程式を記述できる 2. 線形近似式を導出できる 3. 安定微係数の意味を説明できる 4. 飛行機の動安定性を説明できる 5. 飛行性を評価できる</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 振動学 制御工学</p> <p>●授業内容 1. 刚体の姿勢運動 2. 航空機の運動方程式 3. 微小擾乱の運動方程式 4. 安定微係数の推算 5. 飞行機の動安定性 6. 飞行性基準</p> <p>●教科書 航空機力学入門：加藤寛一郎他（東大出版）</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび期末試験で評価する。 100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応：随時対応 担当教員連絡先：内線 5431 takeichi@nuae.nagoya-u.ac.jp</p>	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	3年後期	選択／必修	選択	教員	武市 昇 准教授
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	3年前期																								
選択／必修	選択																								
教員	池田 忠繁 准教授																								
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	3年後期																								
選択／必修	選択																								
教員	武市 昇 准教授																								

<p align="center"><u>計算流体力学 (2.0単位)</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>3年後期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>森 浩一 准教授 北村 圭一 助教 非常勤講師（航空）</td></tr> </table> <p>●本講座の目的およびねらい 1. 流れを数値的解くための方法を理解する。 2. JAXAが開発した計算コードを用いて実際の飛行機周りの流れをグループごとに解くことと、実際の飛行機周りの流れを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 線形代数学・微分方程式：近似理論：理論流体力学</p> <p>●授業内容 1. 流れを数値的に計算する方法の基本を理解する。 2. コンピュータを使って、実際にいくつかの流れを解く演習を行う。 3. 設計・格子生成・CFD演習：自分で設計した物体回りの流れを計算する事で、その空力性能を算出する。計算結果の妥当性や、流れ場を診断する手法を学ぶ。</p> <p>●教科書 プリント</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポート2回提出および最終回での発表</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 Email: mori@nuae.nagoya-u.ac.jp</p>	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	3年後期	選択／必修	選択	教員	森 浩一 准教授 北村 圭一 助教 非常勤講師（航空）	<p align="center"><u>最適制御理論 (2.0単位)</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>電子機械工学 航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>4年後期 4年後期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択 選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>坂本 登 准教授</td></tr> </table> <p>●本講座の目的およびねらい 制御理論およびシステム理論のなかで重要なテーマの一つである最適制御理論およびその応用について学ぶ。これまで学んだ数学（線形代数・多変数微積分学）を復習しながら積極的に応用していく。達成目標 1. 最適性の原理と動的計画法を理解する 2. リッカチ方程式の求解と線形最適制御の設計ができる 3. 最大原理が適用できる 4. H無限大制御の意義を理解する</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 制御工学第1及び演習、制御工学第2</p> <p>●授業内容 1. 静的最適化問題 2. 变分法とその応用 3. 動的最適制御問題 4. 拘束条件付き最適制御問題と最大原理 5. 最適フィードバック制御と最適性の原理 5. 線形2次形式最適制御問題 6. H無限大制御の基礎</p> <p>●教科書 現代制御論：吉川、井村（昭晃堂）及びプリント</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 試験40%、課題レポート30%、演習を30%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p>	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	電子機械工学 航空宇宙工学	開講時期	4年後期 4年後期	選択／必修	選択 選択	教員	坂本 登 准教授
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	3年後期																								
選択／必修	選択																								
教員	森 浩一 准教授 北村 圭一 助教 非常勤講師（航空）																								
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	電子機械工学 航空宇宙工学																								
開講時期	4年後期 4年後期																								
選択／必修	選択 選択																								
教員	坂本 登 准教授																								

宇宙機概論（1.0単位）		航空原動機設計法（1.0単位）	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期1	3年後期	開講時期1	3年後期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師（航空）	教員	非常勤講師（航空）
●本講座の目的およびねらい 宇宙機（人工衛星、補給機、探査機等）の設計、運用に関する基礎および現場における最新の話題について勉強する		●本講座の目的およびねらい ジェットエンジンの設計法について理解すること。	
●バックグラウンドとなる科目		●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学および演習	
●授業内容 ・宇宙機の概要、構成、試験、運用・宇宙機開発の実例		●授業内容 ジェットエンジンの概念設計および要素技術について講義する。	
●教科書		●教科書	
●参考書		●参考書	
●評価方法と基準 レポート		●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。	
●履修条件・注意事項		●履修条件・注意事項	
●質問への対応		●質問への対応	

航空機基礎設計法（1.0単位）		ロケット工学第1（1.0単位）	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期1	3年後期	開講時期1	3年後期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師（航空）	教員	非常勤講師（航空）
●本講座の目的およびねらい ●バックグラウンドとなる科目		●本講座の目的およびねらい ロケットの運動方程式とシステムについて講義する。	
●授業内容		●バックグラウンドとなる科目 力学、熱力学および演習	
●教科書		●授業内容 1. ロケットの運動方程式と解2. 単段ロケット3. 多段ロケット4. 推進システム5. 誘導制御システム6. 構造設計	
●参考書		●教科書 毎回資料を配布する	
●評価方法と基準 ●履修条件・注意事項		●参考書	
●質問への対応		●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。	
		●履修条件・注意事項	
		●質問への対応	

ロケット工学第2 (1.0単位)		ヘリコプター工学 (1.0単位)	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期1	3年後期	開講時期1	3年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (航空)	教員	非常勤講師 (航空)
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
固体ロケットエンジンおよび液体ロケットエンジンについて講義する。		ヘリコプターの空気力学、飛行性能、構成要素の機構の工学基礎知識を修得する。さらに、「もの作り」の一手法として、ヘリコプターの概念設計方法を修得する。	
●バックグラウンドとなる科目		●バックグラウンドとなる科目	
ロケット工学第一、熱力学および演習		航空機の力学 飛行安定操縦性論	
●授業内容		●授業内容	
1. 固体ロケットエンジン：システムと性能2. 液体ロケットエンジン：システムと性能		ヘリコプターにはなぜ大きなローターが必要なのかという疑問への回答から始まり、その歴史と機体の例を引用し、ヘリコプターの形式、浮揚の原理と構成要素の機構を解説する。さらに、基本的空気力学、飛行性能、飛行性能からヘリコプターの主要諸元を構築する概念設計方法を示す。	
●教科書		●教科書	
毎回資料を配布する		講義ノートの配布	
●参考書		●参考書	
特に無し。		特に無し。	
●評価方法と基準		●評価方法と基準	
レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		宿題の評価	
●履修条件・注意事項		●履修条件・注意事項	
●質問への対応		●質問への対応	

フライトコントロールシステム (1.0単位)		航空宇宙機工作法 (1.0単位)	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期1	3年後期	開講時期1	3年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (航空)	教員	非常勤講師 (航空)
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
航空機開発にかかわっている技術者・研究者による、自動操縦装置に関する講義を行う。飛行制御機の概論から始め、実際の飛行制御系設計の事例を通して、飛行力学と制御工学の応用を学ぶ。		最近の航空機やロケットの製造における、開発の進め方や製作法の概要を学習する。また、航空機を構成する部品の加工法、組立法、最新の航空機生産技術の動向にも触れる。	
●バックグラウンドとなる科目		●バックグラウンドとなる科目	
制御工学第一及び演習、制御工学第二		1. 最新の航空機開発の進め方:	
●授業内容		2. 航空機機体の製作法概要:	
1. 航空機力学と自走操縦装置の概要 2. 操縦システム設計 3. アビオニクス・システム／センサ 4. 自動操縦システムの設計事例 5. 安全性／信頼性 6. その他		3. ロケットの製作法概要:	
●教科書	なし	4. 最近の航空機生産技術:	
●参考書		1) 航空機生産の特徴:	
●評価方法と基準		2) コンピュータを用いた生産手法:	
レポートによる		3) 新しい工作法の紹介:	
●履修条件・注意事項		5. 生産性向上活動その他の	
●質問への対応		●教科書	
		●参考書	
		●評価方法と基準	
		レポート	
		●履修条件・注意事項	
		●質問への対応	

航空宇宙材料 (1.0単位)		航空装備システム (1.0単位)	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期 1	3年前期	開講時期 1	3年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (航空)	教員	非常勤講師 (航空)
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
航空宇宙機を設計・製造する立場から、航空宇宙機器に使用される金属材料及び複合材料の種類・材料特性、部品製造に適用されるプロセス技術、並びに機体一次構造部品の設計及び強度解析技術の基礎を習得する。達成目標 1. 航空宇宙機器用の金属材料及びプロセス技術の基礎を理解する。3. 航空宇宙機器一次構造部品の設計・強度解析技術の基礎を理解する。		安全で信頼性のある快適な飛行のために、航空機の装備されている各種の機器の役割、作動原理・構成、設計基準について学ぶ。	
●パックグラウンドとなる科目		●パックグラウンドとなる科目	
材料力学及び演習、材料科学第1、材料科学第2		●授業内容	
●授業内容		1. 採縫系統、降着系統 2. 油圧系統、空調・与圧系統、酸素系統 3. 動力系統、防除水系統、貨物積載系統 4. 計器系統、電気系統、通信・航法系統など	
航空機、エンジン、宇宙機器の各部位に対する要求、既存材料の種類、熱・機械的特性、製造方法、新規材料の特性、及び実機設計から判明した技術リスク、将来の材料に要求される特性などをについて学ぶ。1. 航空宇宙機器構造材料全般 2. 航空機宇宙用金属材料について 3. 航空宇宙用金属部品の製造プロセス技術について 4. 航空宇宙用複合材料について 5. 複合材用の繊維と樹脂について 6. 航空宇宙用複合材部品の製造プロセス技術について 7. 航空宇宙機器一次構造部品の設計について 8. 航空宇宙機器一次構造部品の強度解析について		●教科書	
●教科書		講義中に資料を配布する。	
講義資料を配布する		●参考書	
●参考書		航空宇宙工学ハンドブックなど	
特になし		●評価方法と基準	
●評価方法と基準		レポートにより評価する。	
レポートまたは講義時間中に小テストを実施し、合計100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。		●履修条件・注意事項	
●履修条件・注意事項		本講義は必修では無いが、航空宇宙工学コースの学生は須らく履修されたい。	
特になし		●質問への対応	
●質問への対応		各回の講義終了後に対応する。	
質問は講義時間中に受け付ける。それ以外は、池田准教授へのEメール (ikeda@nuae.nagoya.ac.jp) を通して問い合わせをする。			

航空機構造設計法 (1.0単位)		空力弾性論 (1.0単位)	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期 1	3年後期	開講時期 1	4年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (航空)	教員	非常勤講師 (航空)
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
航空宇宙機に要求される強度及び剛性に関する諸問題について学ぶ。達成目標：航空宇宙機の構造設計と強度・剛性設計の基礎を理解する。		航空機高性能化のための重要な課題の一つである構造の軽量化に伴う空力弾性諸問題の理解を深めるとともに、その技術的解決手法について学ぶ。更に、多分野統合の観点から航空宇宙機構造設計の将来的な先進技術創出のための基礎知識を修得する。	
●パックグラウンドとなる科目		●パックグラウンドとなる科目	
材料力学及び演習、固体力学、振動学及び演習、航空機の力学		航空機の力学、飛行安定探察性論、流体力学第1及び演習、振動学及び演習、応用構造理論	
●授業内容		●授業内容	
1. 構造設計と強度・剛性設計 2. 構造解析 3. 荷重 4. 静强度 5. 疲労強度 6. 振動 7. 強性		1. 空力弾性現象の歴史的背景と種類（含：事故例）2. 各種空力弾性現象とそのメカニズム3. 解析のための非定常空気力のモデル化4. 構造振動解析・結果の評価5. 風洞試験・地上振動試験・飛行試験の実施方法6. 突風荷重軽減・応答軽減のための制御システムの基礎7. JAXA・NASAの研究成果と将来構想について	
●教科書		●教科書	
講義資料を配布する		資料を配布する。	
●参考書		●参考書	
特になし		なし。	
●評価方法と基準		●評価方法と基準	
課題レポートなどにより目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。		課題レポートにより目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入・進学者については、80点以上をAとする。	
●履修条件・注意事項		●履修条件・注意事項	
特になし		特になし。	
●質問への対応		●質問への対応	
質問は講義時間中に受け付ける。それ以外は、池田准教授へのEメール (ikeda@nuae.nagoya.ac.jp) を通して問い合わせをする。		質問は講義時間中に受け付ける。それ以外は、池田准教授へのEメール (ikeda@nuae.nagoya.ac.jp) を通して問い合わせをする。	

安全・信頼性工学 (1.0単位)		機械・航空工学科設計製図第1 (1.0単位)	
科目区分	専門科目	科目区分	専門科目
授業形態	講義	授業形態	実習
対象履修コース	航空宇宙工学	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学
開講時期1	4年前期	開講時期1	3年前期 3年前期 3年前期
選択／必修	選択	選択／必修	必修 必修 必修
教員	非常勤講師 (航空)	教員	上坂 裕之 准教授 鈴木 敦和 准教授
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
安全性・信頼性工学の基礎知識の修得ならびに航空宇宙産業における工学手法の適用事例紹介を通じ、安全性・信頼性工学の有効性への理解を深めます。		機械製図は機械設計と製作を結びつける一種の言語であり、ものづくり教育において必要不可欠な基礎科目である。本講義を通じて三次元機械製図の基礎を幅広く理解し、実習における製図課題を通じてCAD製図を体験することで、機械製図を習得することを目的とする。さらに、3次元CADによる形状設計を体験するとともに、CAMを用いて立形マシニングセンタの加工データを生成して実際の加工も体験することで、設計から製造工程につながるコンピュータ授業技術を習得する。これららの学習を通じて、機械工学における基礎力を身につける。	
●パックグラウンドとなる科目		●パックグラウンドとなる科目	
図学、機構学、		●授業内容	
●授業内容		(1) 機械製図の基礎・体系に関する講義	
1. 安全性・信頼性工学に関する基礎 (含 FMEA, FTA) 2. 宇宙開発・運用における適用・安全性・信頼性を盛込むフェーズ・設計要求として盛込まれた安全性・信頼性を確認するフェーズ・設計要求を具現化する製造フェーズ・製品に盛込まれた安全性・信頼性の確保維持を検証するフェーズ3. 航空機開発・運用・運航における適用・安全性・信頼性を盛込むフェーズ・設計要求を具現化する製造フェーズ・製品に盛込まれた安全性・信頼性の確保維持を検証するフェーズ		図面の基本様式と投影法	
●教科書		寸法の記入方法	
特になし。講義都度プリント配付。		主要な機械部品の図示法 (ねじ, ばね, 齒車, 転がり軸受)	
●参考書		寸法公差および幾何公差の図示法	
・真壁 塔編「新版 信頼性工学入門」 日本規格協会1996・日科技連信頼性工学シリーズ(7)「FMEA, FTAの活用」		表面性状の図示法	
●評価方法と基準		(2) CAD製図実習	
レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		第三角法による製図	
●履修条件・注意事項		寸法の記入	
●質問への対応		寸法公差, 極限公差および面の肌の図示法	
		3次元モデルリング	
		図面情報に基づいた組み付け部品の設計	
		(3) CAM実習	
		CAMソフトによる実習	
		マシニングセンタによる切削加工の実習	
		●教科書	
		必要な講義資料を講義室で配布する。	
		「JISにもとづく標準製図法：大西清、オーム社」を参考書として利用すること。	
		CAD実習やスケジュール、締切、評価結果、緊急の連絡などについては下記ウェブサイトを通じて公開する。	
		http://nx45.cadcam.etcch.engg.nagoya-u.ac.jp/	
		●参考書	
		機械製図 理論と実際：服部延春（工学図書）	
		JISハンドブック59製図：（日本規格協会）	
		機械工学便覧 β1 設計工学：（日本機械学会編）	
		精説 機械製図：和田稻苗ほか（実教出版）	
		●評価方法と基準	
		提出課題の成績やCAM実習への参加状況によって総合的に評価する。	
		●履修条件・注意事項	
		課題の提出期限の厳守や、CAM実習への参加を前提とする。	
		●質問への対応	

機械・航空工学科設計製図第1 (1.0単位)		機械・航空工学科設計製図第2 (1.0単位)	
基本的に、実習中あるいは講義後に対応する。 教員の連絡先は下記ウェブサイトに記載する。 http://nx45.cadcam.etcch.engg.nagoya-u.ac.jp/		科目区分	専門科目
		授業形態	実習
		対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学
		開講時期1	3年後期 3年後期 3年後期
		選択／必修	必修 必修 必修
		教員	関山 浩介 准教授 高橋 徹 講師
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
4自由度ロボットマニピュレータの設計および製図を行う。		4自由度ロボットマニピュレータの設計および製図を行う。	
●パックグラウンドとなる科目		●パックグラウンドとなる科目	
機械・航空工学科設計製図第1		機械・航空工学科設計製図第1	
メカトロニクス工学		●授業内容	
●授業内容		1. ロボットマニピュレータの基礎概念（機構、構造、センサ、アクチュエータ、制御器）	
2. 強度計算		2. 強度計算	
3. 伝達機構の設計		3. 伝達機構の設計	
4. ベアリング・モータの原理と選定		4. ベアリング・モータの原理と選定	
5. 部品図・組立図の製図		5. 部品図・組立図の製図	
●教科書		●教科書	
●参考書		マイコン制御ハンドロボット（設計・製作・制御），洞 啓二・堀尾惇也著（パワーワ社）	
●評価方法と基準		●評価方法と基準	
設計レポートおよび製図レポートを総合的に評価する。		設計レポートおよび製図レポートを総合的に評価する。	
●履修条件・注意事項		●履修条件・注意事項	
●質問への対応		●質問への対応	
講義終了時に対応する。		担当教員連絡先：	
		関山, 052-789-3116, sekiyama@mech.nagoya-u.ac.jp	
		高橋, 052-789-5333, ttaka@nuem.nagoya-u.ac.jp	

<p align="center">航空宇宙創造設計 (1.0単位)</p> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>4年前期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>必修</td></tr> <tr><td>教員</td><td>山田 克彦 教授 池田 忠繁 准教授 森 浩一 准教授 長野 方星 准教授 横田 茂 助教 菅野 望 助教 非常勤講師 (航空)</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 航空機、ロケット、人工衛星から受講生が課題を見つけてその課題に対する設計を行う。具体的な課題に対して設計を行うことにより、基礎的な学問を応用し展開する力を身につける。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 力学、流体力学、構造力学、熱工学、材料工学</p> <p>●授業内容 集中講義方式で実施する。はじめに航空機、ロケット、人工衛星の概論的な解説を行い、その内容を参考に設計するテーマを決めて設計を行う。設計結果は設計報告書にまとめるとともに、発表会で発表する。</p> <p>●教科書 航空宇宙工学便覧、日本航空宇宙学会編、丸善 模型飛行機—理論と実際、森照茂著、電波実験社 機械工学便覧、応用システム編 y11 宇宙機器・システム、日本機械学会編、丸善 宇宙工学概論、小林繁夫著、丸善 ロケット工学、木村逸郎著、養賢堂 ロケット工学基礎講義、富田信之、鬼頭克巳、幸野雄二、長谷川恵一、前田則一著、コロナ社 卫星設計入門、茂原正道、鳥川秀夫編、培風館SPACE MISSION ANALYSIS AND DESIGN, W. J. Larson and J. R. Wertz (editors), Kluwer Academic Publishers</p> <p>●評価方法と基準 評価は設計書と発表会での発表内容によって定める。設計書70%、発表内容30%</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 講義日には教員が質問に対応する。</p>	科目区分	専門科目	授業形態	講義	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	4年前期	選択／必修	必修	教員	山田 克彦 教授 池田 忠繁 准教授 森 浩一 准教授 長野 方星 准教授 横田 茂 助教 菅野 望 助教 非常勤講師 (航空)	<p align="center">機械・航空工学科実験第1 (1.0単位)</p> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>実験</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>3年前期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>必修</td></tr> <tr><td>教員</td><td>仙場 淳彦 助教 輪屋 一郎 助教 北村 圭一 助教</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 講義で習得した原理や法則を体験的に理解し、実験装置や各種測定機器の作動原理、操作法など実験の方法を修得する。また、実験結果の整理、分析を通して科学技術報告書の作成法を学ぶ。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 航空宇宙工学コースの各講義</p> <p>●授業内容 3テーマを数人ずつで実験し、各テーマごとにレポートを提出する。グループ分けおよびローテーションについては学期はじめの説明会で通知する。</p> <p>●教科書 航空宇宙工学実験指導書： 航空宇宙工学専攻編著</p> <p>●参考書 ●評価方法と基準 出席およびレポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	科目区分	専門科目	授業形態	実験	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	3年前期	選択／必修	必修	教員	仙場 淳彦 助教 輪屋 一郎 助教 北村 圭一 助教
科目区分	専門科目																								
授業形態	講義																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	4年前期																								
選択／必修	必修																								
教員	山田 克彦 教授 池田 忠繁 准教授 森 浩一 准教授 長野 方星 准教授 横田 茂 助教 菅野 望 助教 非常勤講師 (航空)																								
科目区分	専門科目																								
授業形態	実験																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	3年前期																								
選択／必修	必修																								
教員	仙場 淳彦 助教 輪屋 一郎 助教 北村 圭一 助教																								

<p align="center">機械・航空工学科実験第2 (1.0単位)</p> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>実験</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>3年後期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>必修</td></tr> <tr><td>教員</td><td>長野 方星 准教授 武市 昇 准教授 菅野 望 助教 横田 茂 助教</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 講義で習得した原理や法則を体験的に理解し、実験装置や各種測定機器の作動原理、操作法などを実験の方法を修得する。また、実験結果の整理、分析を通して科学技術報告書の作成法を学ぶ。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 航空宇宙工学コースの各講義</p> <p>●授業内容 3テーマを数人ずつで実験し、各テーマごとにレポートを提出する。グループ分けおよびローテーションについては学期はじめの説明会で通知する。</p> <p>●教科書 航空宇宙工学実験指導書： 航空宇宙工学専攻編著</p> <p>●参考書 ●評価方法と基準 出席およびレポート</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応</p>	科目区分	専門科目	授業形態	実験	対象履修コース	航空宇宙工学	開講時期	3年後期	選択／必修	必修	教員	長野 方星 准教授 武市 昇 准教授 菅野 望 助教 横田 茂 助教	<p align="center">工場実習 (1.0単位)</p> <table border="0"> <tr><td>科目区分</td><td>専門科目</td></tr> <tr><td>授業形態</td><td>実習</td></tr> <tr><td>対象履修コース</td><td>機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学</td></tr> <tr><td>開講時期</td><td>3年前期 3年前期 3年前期</td></tr> <tr><td>選択／必修</td><td>選択 選択 選択</td></tr> <tr><td>教員</td><td>各教員 (機械情報)</td></tr> </table> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい 企業・団体等のインターンシップに参加し実社会に触れることにより、実社会の現状を把握し学習意欲を向上させ、今後の学生生活に生かす。また、実際の工場現場での実習体験を通して、現場で役立つエンジニアに求められている資質を身に付ける。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 冊子「インターンシップの手引」を参照すること</p> <p>●教科書 ●参考書</p> <p>●評価方法と基準 原則として、事前指導・事前研修、インターンシップの実施状況、実施報告書（実習内容、感想など）、実習先の会社からの実習認定書をもとに評価を行う。必要に応じてインターンシップ実施企業等に実施状況をヒアリングする。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 3年生クラス担任が対応する。</p>	科目区分	専門科目	授業形態	実習	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学	開講時期	3年前期 3年前期 3年前期	選択／必修	選択 選択 選択	教員	各教員 (機械情報)
科目区分	専門科目																								
授業形態	実験																								
対象履修コース	航空宇宙工学																								
開講時期	3年後期																								
選択／必修	必修																								
教員	長野 方星 准教授 武市 昇 准教授 菅野 望 助教 横田 茂 助教																								
科目区分	専門科目																								
授業形態	実習																								
対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学																								
開講時期	3年前期 3年前期 3年前期																								
選択／必修	選択 選択 選択																								
教員	各教員 (機械情報)																								

		工場見学 (1.0単位)			卒業研究 A (2.5単位)						
科目区分	専門科目	授業形態	対象履修コース	開講時期	選択／必修	教員	授業形態	対象履修コース	開講時期	選択／必修	教員
授業形態	実習	機械システム工学	電子機械工学	航空宇宙工学			実験及び演習	航空宇宙工学			
対象履修コース											
開講時期 1	3年前期	3年前期	3年前期				4年前期				
開講時期 2	3年後期	3年後期	3年後期								
選択／必修	選択	選択	選択				必修				
教員	各教員 (機械情報)						各教員 (航空宇宙)				

●本講座の目的およびねらい

1)大学で学んだことが各種の企業においてどのように利用されているのか、2)企業において必要とされる素養が何であるのか、3)日本の企業における生産や研究のレベルはどの程度であるのか等を実際に確認することを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

実際の工場見学および質疑応答

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

出席及び見学レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

卒業研究 A (2.5単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期	4年前期
選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)

●本講座の目的およびねらい

各自がテーマを設定し、講義や演習で学んだ内容を応用・展開して、設定したテーマに対する研究を行い、結果を発表する。研究の進め方や発表方法について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

●履修条件・注意事項

●質問への対応

卒業研究 B (2.5単位)	
科目区分	専門科目
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	航空宇宙工学
開講時期 1	4年後期
選択／必修	必修
教員	各教員 (航空宇宙)

●本講座の目的およびねらい

各自がテーマを設定し、講義や演習で学んだ内容を応用・展開して、設定したテーマに対する研究を行い、結果を発表する。研究の進め方や発表方法について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

●履修条件・注意事項

●質問への対応

工学概論第1 (0.5単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期	1年前期
選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)

●本講座の目的およびねらい

社会の中核で活躍する名古屋大学の先輩による広く深い体験を踏まえた講義を受講することにより、工学系技術者・研究者として必須の対人的・内面的な人間力を涵養するとともに、自らの今後の夢を描き勉学の指針を明確化する。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

「がんばれ後輩」として、社会の中核で活躍する先輩が授業を行う。

●教科書

なし

●参考書

なし。講義の際にレジメが配されることもある。

●評価方法と基準

講師の授業内容に関連して、簡単な課題のレポート提出により評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

教務課の担当者にたずねること。

工学概論第2 (1.0単位)		工学概論第3 (2.0単位)	
科目区分	関連専門科目	科目区分	関連専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	共通	対象履修コース	共通
開講時期1	4年前期	開講時期1	4年後期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)	教員	レレイト エマニュエル 講師 曽 剛 講師 西山 聖久 講師
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
世界は地球温暖化問題に直面し、低炭素型の社会形成が課題となっている。本講義では日本のエネルギー需要の問題を把握するとともに、省エネルギー・再生可能エネルギー技術およびその導入促進策の動向について理解することを目的とする。また、我が国のエネルギー政策の指針となる「エネルギー基本計画」について解説する。		日本の科学技術と題して、日本における科学技術について、英語で概論説明するものである。	
●パックグラウンドとなる科目		●パックグラウンドとなる科目	
特になし		なし	
●授業内容		●授業内容	
1. 日本のエネルギー事情 2. 日本のエネルギー政策とエネルギー基本計画 3. 太陽エネルギー利用技術 4. 排熱利用による省エネルギー技術 5. 低炭素型社会に向けた仕組み作り～環境モデル都市の取り組み例 6. 「エネルギー検定」をやってみよう		日本の科学と技術における各分野の発展の歴史や先端技術について、ビデオや先端企業の見学を通して紹介する。日本が世界において科学的および技術的に果たす役割について討議し、理解を深める。	
※講義中に新エネルギー等に関するアンケート調査を実施する。その集計結果を全国調査の結果と比較する予定。		●教科書	
●教科書		なし	
特になし		●参考書	
●参考書		なし	
参考資料を講義中に配布する		●評価方法と基準	
●評価方法と基準		出席 30 %, レポート 40 %, 発表 30 %	
2日間の講義それぞれでレポート課題を出し、その場で提出する。レポートの内容によって評価する。		●履修条件・注意事項	
●履修条件・注意事項		集中講義 2日間の両方ともに出席し、2つのレポートを提出する必要がある。	
●質問への対応		●質問への対応	
集中講義のため、質問は講義時間中に受け付ける。		授業中及び授業後に対応する	

工学概論第4 (3.0単位)		工学倫理 (2.0単位)	
科目区分	関連専門科目	科目区分	関連専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	共通	対象履修コース	共通
開講時期1	1年前期	開講時期1	1年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)	教員	非常勤講師 (教務)
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
この授業は、日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために基本的なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要な初步的な文法、表現を学び、会話を中心とした日本語の能力を養成する。		技術は社会や自然に対して様々な影響を及ぼし種々な効果をもたらしています。それらに関する理解力や責任など、技術者の社会に対する責任について考え、自覚する能力を身につけることをめざします。	
●パックグラウンドとなる科目		●パックグラウンドとなる科目	
なし		全学教養科目（科学・技術の倫理、科学技術史、科学技術社会論） 文系教養科目（科学・技術の哲学）	
●授業内容		●授業内容	
1. 日本語の発音 2. 日本語の文の構造 3. 基本語彙・表現 4. 会話練習 5. 聴解練習		1. 工学倫理の基礎知識 2. 工学の実践に関わる倫理的な問題	
●教科書		●教科書	
Japanese for Busy People I (第3版) 国際日本語普及協会 講談社インターナショナル (2006)		黒田光太郎、戸田山和久、伊勢田哲治編『誇り高い技術者になろう—工学倫理ノススメ』(名古屋大学出版会)	
●参考書		●参考書	
C. ウィットバック(札野順、飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房), 斎藤了文・坂下浩司編, 『はじめての工学倫理』(昭和堂), C.ハリス他著(日本技術士会訳編)『科学技術者の倫理-その考え方と事例-』(丸善), 米国科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすみたちへ』(化学同人)		C. ウィットバック(札野順、飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房), 斎藤了文・坂下浩司編, 『はじめての工学倫理』(昭和堂), C.ハリス他著(日本技術士会訳編)『科学技術者の倫理-その考え方と事例-』(丸善), 米国科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすみたちへ』(化学同人)	
●評価方法と基準		●評価方法と基準	
毎回講義における質疑応答と演習 50 % 会話試験 50 % で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。		レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上を69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点をA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入学者については、60点から69点を可、70点から79点を良、80点以上を優とする。	
●履修条件・注意事項		●履修条件・注意事項	
●質問への対応		●質問への対応	
講義終了時にに対応する。担当教員連絡先：内線 3603 04251a@cc.nagoya-u.ac.jp		講義時間終了後およびメールで対応します。メールアドレスは初回講義で知らせます。	

経営工学 (2.0単位)		産業と経済 (2.0単位)	
科目区分	関連専門科目	科目区分	関連専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	共通	対象履修コース	共通
開講時期	4年後期	開講時期	4年後期
選択／必修	選択	選択／必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)	教員	非常勤講師 (教務)
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
製造業を中心とする企業経営において、その成長・発展に不可欠な技術革新のマネジメントを学ぶ。経営学、組織論、経済学、技術史などの多様な観点から解説する。		具体的な経済問題について検討しつつ、一般社会人として必要な経済の知識を習得し、同時に経済学的な思考を学ぶ。達成目標 1. 一般社会人として必要な経済知識の習得 2. 経済学的な思考の理解・習得	
●バックグラウンドとなる科目		●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容		●授業内容	
1. 技術革新の進続性～コネクションズ～ 2. 技術革新における飛躍～セレンディピティ～ 3. 革新的組織と場のマネジメント 4. 技術革新の背景～パラダイムシフト～ 5. 技術革新のダイナミズム～アーキテクチャ～ 6. 技術革新能力の変化～コンカレント・ラーニング～		1. 経済循環の構造…ギブ・アンド・ティク 2. 景気の変動…好況と不況 3. 外国為替レート…円高と円安 4. 政府の役割…歳入と歳出 5. 日銀の役割…物価の安定と信用秩序の維持 6. 人口問題…過剰人口と過少人口 7. 経済学の歴史…スミスとケインズ 8. 自由市場経済…その光と影 9. 第二次世界大戦後の日本経済…インフレとデフレ	
●教科書		●教科書	
中矢俊博『入門書を読む前の経済学入門』第三版(同文館)		●参考書	
P. A. サムエルソン, W. D. ノードハウス『経済学』(岩波書店)		宮沢健一(編)『産業連関分析入門』<新版>(日経文庫, 日本経済新聞社)	
尾崎巖『日本の産業構造』(慶應義塾大学出版会)		●評価方法と基準	
●評価方法と基準		期末試験により、目標達成度を評価する。 <<平成22年度以前入学生>> 100点満点で60点以上を合格とし、 60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。	
●履修条件・注意事項		<<平成23年度以降入学生>> 100点満点で60点以上を合格とし、 60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。	
●質問への対応		●質問への対応	
講義内容についての質問は、講義中に応対する。		講義時間の前後に、講義室にて対応する。	

特許及び知的財産 (1.0単位)		生産工学概論 (2.0単位)	
科目区分	関連専門科目	科目区分	関連専門科目
授業形態	講義	授業形態	講義
対象履修コース	共通	対象履修コース	機械システム工学 電子機械工学 航空宇宙工学
開講時期	4年後期	開講時期	4年前期 4年前期 4年前期
選択／必修	選択	選択／必修	選択 選択 选択
教員	後藤 吉正 教授	教員	宇野 洋二 教授
●本講座の目的およびねらい		●本講座の目的およびねらい	
・研究者や技術者にとって特許がなぜ必要かを理解する。 ・特許の基本知識を学び、受講生が発明した場合に、何をすれば良いかを学ぶ		日本を代表する企業からの講師陣による英語の講義から、現代日本の生産工学の理解を深め、英語の授業が理解できる能力を身に着ける。	
到達目標		●バックグラウンドとなる科目	
1. 特許制度の目的と必要性を理解する 2. 特許出願の手続きを理解し、簡単な出願書類が書ける 3. 基本的な特許用語ができる 4. 企業や大学が特許などどのように使っているのか解る		なし	
●バックグラウンドとなる科目		●授業内容	
特になし		1. 自動車産業における生産管理論 2. 自動車部品生産システム 3. 航空宇宙産業における生産管理論 4. 航空宇宙機器生産システム 5. ナノ・テクノロジー	
●授業内容		●教科書	
1. はじめに：知的財産と特許の狙い 2. 特許制度の概要 3. 特許調査を体験する 4. 特許出願の書類の作成を体験する 1 5. 特許出願の書類の作成を体験する 2 6. 特許権の使い方 7. 国際標準化と特許戦略 8. 企業や大学の特許マネジメント		資料を配布	
●教科書		●参考書	
なし		なし	
●評価方法と基準		●評価方法と基準	
毎回講義終了時に出題するレポート 70 %, 演習テーマについて作成する特許出願書類 30 %で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。		レポート	
●履修条件・注意事項		●履修条件・注意事項	
●質問への対応		留学生を優先し、受講者数を最大30名までとする。一部の授業ではグループ討論、課題を課すこともあります。TOEIC600点相当以上の英語能力を必要とする。	
・原則、講義終了時に対応する。必要に応じて教員室で対応		●質問への対応	
・教員室：赤崎記念研究館2階		・担当教員連絡先：内線3924 goto.yoshimasa@sangaku.nagoya-u.ac.jp	

<u>職業指導 (2.0単位)</u>	
科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期 1	4年後期
選択／必修	選択
教員	非常勤講師（教務）
●本講座の目的およびねらい	
本科目は、高等学校教諭免許「工業」を取得するための必須科目です。 高等学校における職業指導の目的と意義、勤労観・職業観を育成するために行われている実践的な職業指導、進路指導、及びキャリア教育等について学ぶ。特に、職業の今日的な問題についての学習を踏まえ、職業人として意欲を持ち、主体的な意思や態度で自らのキャリア形成を図るために行う支援について、具体的なプロセスを学ぶ。	
1 産業社会における工業の意義、役割、貢献等を習得する。 2 産業社会で求められる職業人像について考える。 3 社会人としての基礎力を身に付ける。 4 キャリア形成における自己実現を目指すプロセスを考察する。 5 職業指導における今日的課題について考察する。	
●バックグラウンドとなる科目	
現代社会、国際社会、政治、経済、歴史、教育発達心理学など	
●授業内容	
1・2 はじめに、「職業指導」の根拠、意義、役割等 3・4 現代の産業構造とキャリア形成に向けて 5・6 社会の変化と職業指導、キャリア教育 7・8 職業指導の方法と実際 進路指導とカウンセリング技術 9・10 キャリアガイドンス・コーチング技術と進路指導 11・12 職業指導の具体事例 自己実現を目指すプロセス 13・14 職業指導の評価 15 「試験問題」の出題	
●教科書	
特に指定しない。（必要に応じて、プリントを適宜配付）	
●参考書	
「厚生労働白書」 H25年版（厚生労働省） 「進路指導・キャリア教育の理論と実践」吉田辰著（日本文化科学社） 「教育の職業の意義」本田由紀著（ちくま書房） 「工業科教育法の研究」池守滋他（実教出版） 等 その他、参考文献は講義中に紹介する。	
●評価方法と基準	
期末試験、課題レポート、出席状況等での絶対評価	
●履修条件・注意事項	
●質問への対応	
授業項目に関する質疑応答措置	